

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分			
					専1年				専2年								
					前		後		前		後						
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q					
一般	必修	総合英語 I	90011	学修単位	2	2										市川 裕理	
一般	必修	技術者倫理	90013	学修単位	2	2										北野 孝志	
一般	選択	歴史学	90015	学修単位	2	2										京極 俊明	
一般	選択	日本の言葉と文化	90016	学修単位	2			2								山口 比砂	
一般	選択	地域と産業	90018	学修単位	2			2								高橋 清久 吾島 桃代	
一般	選択	技術英語	90311	学修単位	2			2								藤原 孝洋	
一般	選択	解析力学	91011	学修単位	2	2										榎本 貴志	
一般	選択	線形代数学	91012	学修単位	2	2										吉澤 毅	
一般	選択	生物化学	91018	学修単位	2	2										三浦 大和	
一般	選択	原子物理学	91022	学修単位	2			2								高村 明	
一般	選択	応用解析学 I	91023	学修単位	2			2								勝谷 浩明	
専門	選択	都市地域解析論	92023	学修単位	2			2								佐藤 雄哉	
専門	選択	インターンシップ	92311	学修単位	4	6		6								都築 啓太	
専門	必修	情報科学実験	95002	学修単位	4	6		6								稲垣 宏	
専門	選択	コンピュータシステム	95011	学修単位	2			2								藤原 孝洋	
専門	選択	デジタル信号処理	95012	学修単位	2	2										安藤 浩哉	
専門	選択	ソフトウェア工学	95013	学修単位	2	2										木村 勉	
専門	選択	論理回路設計	95017	学修単位	2	2										仲野 巧	
専門	選択	コンピュータアーキテクチャ応用	95019	学修単位	2			2								仲野 巧	
専門	選択	応用情報システム	95028	学修単位	2	2										藤原 賢二	
専門	選択	知識情報工学	95029	学修単位	2			2								早坂 太一	
専門	選択	離散数学	95030	学修単位	2			2								米澤 佳己	
専門	必修	特別研究 I	95302	学修単位	6	6		6								都築 啓太, 江崎 信行, 安藤 浩哉, 稲垣 宏, 木村 勉, 仲野 巧, 早坂 太一, 藤原 賢二, 藤原 孝洋, 村田 匡輝	
一般	必修	総合英語 II	90012	学修単位	2								2			神谷 昌明	
一般	選択	上級英語表現	90014	学修単位	2				2							遠藤 颯馬	
一般	選択	応用解析学 II	91015	学修単位	2								2			金坂 尚礼	
一般	選択	統計熱力学	91016	学修単位	2								2			大森 有希子	

一般	選択	生体情報論	91019	学修単位	2					2			加藤 貴英
一般	選択	健康科学特論	91020	学修単位	2							2	加藤 貴英
一般	選択	初等代数	91021	学修単位	2					2			米澤 佳己
専門	選択	信頼性工学	92012	学修単位	2					2			中村 裕紀
専門	選択	情報システム工学	92014	学修単位	2							2	小松 弘和
専門	選択	パターン情報処理	92015	学修単位	2							2	村田 匡輝
専門	選択	工業デザイン論	92016	学修単位	2							2	三島 雅博
専門	選択	技術史	92017	学修単位	2							2	稲垣 宏 鬼頭 俊介 塚本 武彦 小林 今睦 岡 克也
専門	選択	コンパイラ	95018	学修単位	2							2	江崎 信行
専門	選択	電子工学	95023	学修単位	2					2			都築 啓太
専門	選択	数理論理学	95024	学修単位	2					2			米澤 佳己
専門	選択	ネットワークセキュリティ	95025	学修単位	2					2			平野 学
専門	選択	形式言語理論	95031	学修単位	2					2			勝谷 浩明
専門	必修	特別研究Ⅱ	95303	学修単位	6					6		6	稲垣 宏 安藤 浩哉 木村 早太 坂 太郎 江崎 信行 平野 学 村田 匡輝 都築 啓太

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	総合英語 I
科目基礎情報					
科目番号	90011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Present Yourself2 (Cambridge University Press)				
担当教員	市川 裕理				
目的・到達目標					
(ア)様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができる。 (イ)様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。 (ウ)英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができる。		様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を教員の助言を参考にしながら理解し、使用することができる。		様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができない。
評価項目(イ)	様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。		様々な話題について、教員の助言を参考にしながら英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。		様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができない。
評価項目(ウ)	英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得する。		英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を教員の助言を参考にしながら習得する。		英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C3 英語によるコミュニケーション基礎能力をもっている。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	様々な話題について、学んだことや経験したことに基づき、自分の意見や感想を英語を用いて表現し、意見交換できるようにすることを目標とする。さらに、英語を学ぶことを通じて、多様なものの見方や考え方を理解することで、思考力を養う。				
授業の進め方と授業内容・方法	教科書の内容理解を行った上(introduction)で、英語によるやりとり(interaction)と発表(presentation)を行い、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。授業は基本的に、調べ学習・意見交換・発表(個人またはグループ)の流れで行う。				
注意点	英和辞典(紙または電子辞書)を持参すること。授業内容について、各ユニットの課題に取り組み、発表にあたっては、各自練習をした上で臨むこと。また、質疑応答、意見交換を行う際には、積極的に自分の考えを述べること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、Getting ready演習	授業目標を理解し、Getting readyについて演習(ディスカッションとプレゼンテーション)を行うことができる。	
		2週	A person to admireに関するディスカッション(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion)	
		3週	A person to admireに関するプレゼンテーション(自学自習内容) 発表原稿作成、練習する。	評価項目に沿って、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	
		4週	In the newsに関するディスカッション(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion)	
		5週	In the newsに関するプレゼンテーション(自学自習内容) 発表原稿作成、練習する。	評価項目に沿って、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	
		6週	Young people todayに関するディスカッション①(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	データをもとに自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion)	
		7週	Young people todayに関するディスカッション②(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	データをもとに自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion)	
		8週	Young people todayに関するプレゼンテーション(自学自習内容) 発表原稿作成、練習する。	評価項目に沿って、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	
	2ndQ	9週	Let me explainに関するディスカッション①(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	事実と意見を分けて物事をとらえ、議論を行うことができる。(Discussion)	
		10週	Let me explainに関するディスカッション②(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	事実と意見を分けて物事をとらえ、議論を行うことができる。(Discussion)	
		11週	Let me explainに関するプレゼンテーション(自学自習内容) 発表原稿作成、練習する。	評価項目に沿って、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	
		12週	In my opinionに関するディスカッション①(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	様々な立場からディスカッションを行うことができる。(Debate)	
		13週	In my opinionに関するディスカッション②(自学自習内容) テーマについて調べ学習をする。	様々な立場からディスカッションを行うことができる。(Debate)	
		14週	In my opinionに関するプレゼンテーション(自学自習内容) 発表原稿作成、練習する。	評価項目に沿って、プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	

		15週	総合英語 I のまとめ	これまでの内容を踏まえて、ディスカッションを行うことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	技術者倫理
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	90013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	黒田・戸田山・伊勢田 (編) 『誇り高い技術者になろう [第二版]』 (名古屋大学出版会) ISBN: 9 7 8 - 4 - 8 1 5 8 - 0 7 0 6 - 1 / 直江・盛永 (編) 『理系のための科学技術者倫理』 (丸善出版) ISBN: 9 7 8 - 4 - 6 2 1 0 - 8 9 4 6 - 0 他				
担当教員	北野 孝志				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア) 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。 (イ) 技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。 (ウ) 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。 (エ) 科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。 (オ) 技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	社会における技術者の役割と責任を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。	社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できる。	社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できない。		
評価項目(イ)	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できない。		
評価項目(ウ)	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を主体的に検討することができる。	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できる。	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 C1 作ったものが社会に与える影響を正しく認識し、技術者としての倫理観をもっている。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
<b>教育方法等</b>					
概要	科学技術の進歩は我々の生活環境や社会に大きな影響を及ぼし、物質的な豊かさをもたらした反面、数々の問題も引き起こしている。そして、近年科学技術を背景とする様々な事故や不祥事が表面化するにつれ、技術者自身の責任や判断に対する自覚が求められるようになってきた。そこで、この授業では技術者が直面する倫理的問題について、具体的な事例を取り上げつつ考察し、技術者としていかにあるべきかを追究していく。				
授業の進め方と授業内容・方法	それぞれの授業内容についてパワー・ポイントを使って説明し、技術士一次試験適性科目過去問などを通して理解度を確認する。過去の事例のビデオや資料なども適宜利用し、倫理的な問題点や解決策についてグループで考えたりといったことも行う。				
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	技術者倫理とは：その背景と取り組み (予習：教科書の指定箇所)	(ア) 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	
		2週	技術者の責任：プロフェッションとしての技術者の特徴とその責任 (復習：技術士一次試験適性科目過去問)	(ア) 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	
		3週	技術者の責任：法的責任と倫理的責任、責任ある技術者 (課題：事例研究に関する課題の完成)	(ア) 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	
		4週	法的責任と倫理的責任：法の限界と倫理、倫理綱領とその意義 (復習：配布資料、技術士一次試験適性科目過去問)	(ア) 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	
		5週	倫理問題の解決策 (復習：配布資料、技術士一次試験適性科目過去問)	(イ) 技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。	
		6週	安全性とリスク：リスク概念の導入、本質安全と制御安全 (復習：技術士一次試験適性科目過去問、予習：教科書の指定箇所)	(ウ) 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	
		7週	安全性とリスク：受け入れ可能なリスクと技術的逸脱の標準化 (復習：技術士一次試験適性科目過去問)	(ウ) 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	
		8週	安全性とリスク：リスク評価、安全性と設計 (課題：事例研究に関する課題の完成)	(ウ) 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	安全性とリスク：ヒューマンエラーと集団思考 (復習：配布資料、技術士一次試験適性科目過去問)	(ウ) 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	
		10週	技術と環境：公害と公害輸出 (復習：技術士一次試験適性科目過去問)	(エ) 科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。	

	11週	技術と環境：地球環境問題、環境と設計（復習：配布資料）	(工)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。
	12週	消費者保護の視点：不法行為法と製造物責任法（復習：技術士一次試験適性科目過去問，予習：教科書の指定箇所）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
	13週	消費者保護の視点：説明責任（復習：技術士一次試験適性科目過去問，予習：教科書の指定箇所）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
	14週	組織の一員としての技術者：職務発明と守秘義務、内部告発と公益通報者保護法（復習：配布資料，技術士一次試験適性科目過去問）	(オ)技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。
	15週	授業のまとめ	(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	歴史学
科目基礎情報					
科目番号	90015		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	姫岡とし子 「ヨーロッパの家族史」 (山川出版社) / プリント、山川出版社「世界史リブレット」シリーズ				
担当教員	京極 俊明				
目的・到達目標					
(ア)歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。 (イ)自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、まとめることができる。 (ウ)報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。 (エ)現代社会の問題と過去の世界との関連について考察することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。		歴史学の基本的な手法について理解することができる。		歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができない。
評価項目(イ)	自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査・報告し、自分の見解を述べる事ができる。		自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができる。		自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができない。
評価項目(ウ)	報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。		報告と質疑応答に参加し、議論を行う事ができる。		報告と質疑応答に参加し、議論と改善を行う事ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	この授業では、歴史学の基本的な知識と方法論を学び、民族、宗教、文化などが異なる社会への理解力を高めることを課題とする。まず導入として、「ヨーロッパの家族史」を取り上げ、報告を行う。その後、おにも「世界史リブレット」シリーズから、異文化理解に関係する題材を各学生が選び、報告と質疑応答を行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	導入としてテキスト「ヨーロッパの家族史」を読み、各章ごとに希望する学生にレジュメを作成して発表してもらう。それ以降は、各学生が自分でテーマを採って同様に発表を行う。発表の際には学生を指名し、質疑応答を行う。				
注意点	報告の際には、豊田高専図書館所蔵の「世界史リブレット」シリーズを活用して欲しい。関心があれば、より高度な専門書を用いても良い。また報告の準備のための予習、報告時に指摘された問題点についての復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
前期	1週	イントロダクション		歴史学の多様な方法論について理解できる。	
	2週	歴史学の方法論 (予習 ヨーロッパの家族史講読)		歴史学の多様な方法論について理解できる。	
	3週	ヨーロッパの家族史報告 (第1章) (復習 レジュメの再読 予習 ヨーロッパの家族史講読)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第1章についての報告と質疑応答ができる。	
	4週	ヨーロッパの家族史報告 (第2, 3章) (復習 レジュメの再読 予習 ヨーロッパの家族史講読)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第2, 3章について報告と質疑応答ができる。	
	5週	ヨーロッパの家族史報告 (第4, 5章) (復習 レジュメの再読 予習 発表の準備)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第4, 5章について報告と質疑応答ができる。	
	6週	学生報告 (1)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	7週	学生報告 (2)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	8週	学生報告 (3)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	9週	学生報告 (4)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	10週	学生報告 (5)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	11週	学生報告 (6)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	12週	学生報告 (7)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	13週	学生報告 (8)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	14週	学生報告 (9)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	

		15週	現代の諸問題と歴史学の意義（予習 過去の報告と現代についての考察）	歴史学と現代の諸問題の関係について理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	



豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	日本の言葉と文化
科目基礎情報					
科目番号	90016		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜プリントを配布する。				
担当教員	山口 比砂				
目的・到達目標					
(ア)自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。 (イ)文および文章の構造を理解し、適切に表現することができる。 (ウ)様々な論証の方法を理解し、目的に応じて適切に活用できる。 (エ)目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる論作文・レポートを作成できる。 (オ)作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用し、研究報告を作成できる。	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できない。		
評価項目(イ)	文・文章の構造を理解し、適切に表現し、研究報告を作成できる。	文・文章の構造を理解し、適切に表現することができる。	文・文章の構造を理解し、適切に表現することができない。		
評価項目(ウ)	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成することができる。	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成できる。	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	論理的な日本語力を身につけるための実践的トレーニングを行う。具体的には、文章表現の基礎として日本語の文構造および語順について学んだ上で、情報収集・分析・整理そして論証についての理論学習および実践を行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	今後の進学・就職を見据えて、論理力およびそれに根ざした日本語力を鍛えることを目的とする。論作文・レポートのテーマ候補は授業担当者が予め準備しているが、受講者と相談しつつ調整する。				
注意点	本科4年次「日本語表現」の学習内容はすべて習得済みであることを前提に授業を進める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス (到達目標の提示と注意点の確認) 〔学習:本科4年次「日本語表現」の学習内容を確認する〕	到達目標と注意点を理解できる。論理力とは何かを理解できる。	
		2週	論理力を養う1 (文構造) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	文構造を正しく理解・表現することができる。	
		3週	論理力を養う2 (語順) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	語順を正しく理解・表現することができる。	
		4週	論理力を養う3 (文の接続) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	接続語を正しく理解・表現することができる。	
		5週	論理力を養う4 (情報の整理) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	思考を整理し、適切な文章を書くことができる。	
		6週	論理力を養う5 (事実と主張) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	事実と主張の区別、自他の意見の区別ができる。	
		7週	論理力を養う6 (論証の方法) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	主張を支える根拠を正しく示すことができる。	
		8週	論理力を養う7 (論の構造) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	論文の基本構成を理解して、論を展開できる。	
	4thQ	9週	論理力を養う8 (正確な言葉選び1) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	目的や状況に応じて正しい言語運用ができる。	
		10週	論理力を養う9 (正確な言葉選び2) 〔復習:授業で読解した評論の理解を深める〕	目的や状況に応じて正しい言語運用ができる。	
		11週	論理力を養う10 (レポート議論) 〔課題:テーマに関する情報を集める〕	思考を整理し、選んだテーマについて議論できる。	
		12週	論理力を養う11 (レポート構想) 〔課題:情報を整理して資料を作成する〕	適切な情報収集を行い、グループで共有し、議論できる。	
		13週	論理力を養う12 (レポート執筆) 〔課題:レポートの原案を仕上げる〕	収集した情報を適切に用いて、レポート作成ができる。	
		14週	論理力を養う12 (レポート推敲・プレゼンテーション1) 〔課題:レポートの校正と清書を行う〕	レポート原案を推敲して、完成できる。的確な口頭発表の方法を理解できる。	
		15週	論理力を養う13 (プレゼンテーション2)・まとめ 〔復習:論理力に関する学習の総復習を行う〕	的確な口頭発表の方法を実践できる。学習内容・学習成果を振り返り、整理できる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	課題	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	
分野横断的能力	50	20	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	地域と産業
科目基礎情報					
科目番号	90018		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特になし。 / 『新詳高等地図』 (または任意の高校生向け以上の地図帳) を毎回持参すること。				
担当教員	高橋 清吾, 久島 桃代				
目的・到達目標					
<p>(ア) 歴史地理学の基本的な手法を説明することができる。</p> <p>(イ) 日本における諸産業の歴史的展開について説明できる。</p> <p>(ウ) 日本各地における諸産業の地域的特性について説明できる。</p> <p>(エ) 自ら興味・関心の持つテーマを選び、歴史的・地理的視点からまとめることができる。</p> <p>(オ) 発表と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行うことができる。</p>					
ルーブリック					
		到達レベルの目安(優)	到達レベルの目安(良)	到達レベルの目安(可)	
歴史地理学の基本的な手法への理解		歴史地理学の基本的な手法について理解し、説明することができる。	歴史地理学の基本的な手法について理解することができる。	歴史地理学の考え方を理解することができない。	
日本における諸産業への理解		具体的な産業を取り上げ、その発生要因を、歴史的・地理的要因を踏まえて説明することができる。	産業の発展を歴史的・地理的要因を踏まえて理解することができる。	産業の発展を歴史的・地理的要因を踏まえて理解することができない。	
興味・関心のあるテーマの発表への取り組み		自ら興味・関心の持つテーマを選び、歴史的・地理的視点からオリジナリティのあるまとめ方ができる。	自ら興味・関心の持つテーマを選び、歴史的・地理的視点からまとめることができる。	自ら興味・関心の持つテーマを選び、まとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。</p> <p>JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <p>JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任</p> <p>本校教育目標 ⑤ 技術者倫理</p>					
教育方法等					
概要	本講義では、地理学、特に歴史地理学の基本的な知識と方法論を学び、日本各地における諸産業の形成と発展についての知見を得て、新技術の創造や企業経営の一方策とすることを目標とする。前半では、近世や近代における諸産業の発展とその背景について歴史的・地域的文脈に着目しながら講義する。後半では、各受講生が関心のあるテーマ(産業・地域)を選択し、その産業が発展するにあたって人々がどのような工夫を試みたかをまとめ、発表とディスカッションを行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義ならびに受講生による発表(ディスカッション含む)とする。				
注意点	授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。講義において受講生に意見を求めることがあるので、その際には自分なりの考えをまとめて答えてもらうことを期待する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション (予習: 一般科目の地理関係科目で学んだ内容を確認、復習: 配布資料)	地理学と歴史地理学の基礎を理解することができる。	
		2週	歴史地理学とはどのような分野か (復習: 配布資料)	歴史地理学の研究対象や方法を理解することができる。	
		3週	近世・近代における農業 (復習: 配布資料)	農業の特徴について理解できる。	
		4週	近世・近代における工業 (復習: 配布資料)	工業の特徴について理解できる。	
		5週	都市の発展 (復習: 配布資料)	都市の発展について理解できる。	
		6週	近世・近代における流通 (復習: 配布資料)	近世・近代の流通体系について理解できる。	
	4thQ	7週	学生発表(1) 内容は各自で選択(発表+質疑応答で2.5分、3名が発表)(課題: 発表者はスライドと配布資料の準備)	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。	
		8週	学生発表(2) 発表内容は各自で選択(発表+質疑応答で2.5分、3名が発表)(課題: 発表者はスライドと配布資料の準備)	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。	
		9週	学生発表(3) 発表内容は各自で選択(発表+質疑応答で2.5分、3名が発表)(課題: 発表者はスライドと配布資料の準備)	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。	
		10週	学生発表(4) 発表内容は各自で選択(発表+質疑応答で2.5分、3名が発表)(課題: 発表者はスライドと配布資料の準備)	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。	
		11週	学生発表(5) 発表内容は各自で選択(発表+質疑応答で2.5分、3名が発表)(課題: 発表者はスライドと配布資料の準備)	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。	

	12週	学生発表（6）発表内容は各自で選択（発表+質疑応答で25分、3名が発表）（課題：発表者はスライドと配布資料の準備）	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。
	13週	学生発表（7）発表内容は各自で選択（発表+質疑応答で25分、3名が発表）（課題：発表者はスライドと配布資料の準備）	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。
	14週	学生発表（8）発表内容は各自で選択（発表+質疑応答で25分、3名が発表）（課題：発表者はスライドと配布資料の準備）	3名の学生が自分で選んだテーマで発表し、質疑応答ができる。
	15週	まとめ （予習：これまでの内容の再確認）	これまでの内容を整理し、理解を深める。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	技術英語
科目基礎情報					
科目番号	90311		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「科学者・技術者のための英語論文の書き方」、R. Lewis 他 (東京化学同人) ISBN:978-4807905669/The Elements of Style, William Strunk Jr. (Longman) ISBN:978-0205309023, A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations, Kate L. Turabian (The Univ. of Chicago Press) ISBN:978-0226816388				
担当教員	藤原 孝洋				
目的・到達目標					
(ア)英語で書かれた技術文書(専門書、マニュアル、および科学論文)の一部を読んで内容を理解できる。 (イ)科学論文の構成、論理的な段落の構成方法、スタイル、時制について理解できる。 (ウ)自分の特別研究のタイトルと概要を英文で書き発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	英語で書かれた技術文書(専門書、マニュアル、および科学論文)の一部を読んで内容を正確に理解できる。	英語で書かれた技術文書(専門書、マニュアル、および科学論文)の一部を読んで内容を理解できる。	英語で書かれた技術文書(専門書、マニュアル、および科学論文)の一部を読んで内容を理解できない。		
評価項目(イ)	科学論文の構成、論理的な段落の構成方法、スタイル、時制について正確に理解できる。	科学論文の構成、論理的な段落の構成方法、スタイル、時制について理解できる。	科学論文の構成、論理的な段落の構成方法、スタイル、時制について理解できない。		
評価項目(ウ)	自分の特別研究のタイトルと概要を英文で正確に書き発表することができる。	自分の特別研究のタイトルと概要を英文で書き発表することができる。	自分の特別研究のタイトルと概要を英文で書き発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C3 英語によるコミュニケーション基礎能力をもっている。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	世界で活躍できる技術者になるためには、英語の技術文書を読み書きできる能力が必要不可欠である。本講義では英語で書かれた比較的容易な専門書、マニュアル、科学論文などの文章をできるだけ多く読み、英語で書かれた技術英語に慣れる。英文の読解と並行して、技術文書を英語で書く際に注意すべきルール、守るべきスタイル、工学系論文やレポートの特徴、段落の作り方などを学習する。本講義では最終的に、自分の特別研究のタイトルと概要を英語で書けるようになることを目標とする。この科目は、海外企業とのシステム開発の経験がある教員が、その技術開発の経験と、学術分野における研究論文の発表経験を基に、英語によるテクニカルライティングと英語によるプレゼンテーションについて講義・演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方と授業内容・方法	本講義では、英語で書かれた比較的容易な専門書、マニュアル、科学論文などの文章を読み、技術英語に慣れる。英文の読解と並行して、技術文書を英語で書く際に注意すべきルール、守るべきスタイル、工学系論文やレポートの特徴、段落の作り方などを学習する。英語によるテクニカルライティングと英語によるプレゼンテーションについて講義・演習形式で授業を行う。				
注意点	英和・和英辞書(電子辞書、またはパソコンの辞書ソフトを推奨する)を授業に必ず持参すること。本科から実施してきている多読とあわせて、英英辞書(Longman Dictionary of Contemporary English など)の活用も推奨する。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。授業内容について、決められた期日までの課題(レポート)提出を求める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス：授業内容の説明 論文の要素と執筆計画、論文の基本構成	科学論文の準備と基本構成(Introduction, Method, Result and Discussion: IMRAD)を理解できる。	
		2週	科学論文構成(1):タイトルとアブストラクトの書き方 (自学自習:タイトルとアブストラクトの構成を復習する)	論文のタイトルとアブストラクトの書き方を理解できる。	
		3週	科学論文構成(2):イントロダクションの書き方 (自学自習:配付資料の論文のイントロダクションを読む)	サンプルの論文を読解し、イントロダクションの書き方を理解できる。	
		4週	科学論文構成(3):科学技術論文の読解と要約 (自学自習:配付資料の論文を読み、要約を作成する)	サンプルの論文の読解と要約を行い、科学論文の構成を理解できる。	
		5週	技術英語表現(1):技術英語表現の注意点の理解 (自学自習:教科書を参考に、注意すべき表現を予習する)	科学技術英語で注意すべき表現について、動詞と時制、能動態と受動態の使い分け、冠詞の区別について理解できる。	
		6週	技術英語表現(2):技術英語表現の注意点の理解 (自学自習:教科書を参考に、図表の説明を予習する)	科学技術論文で、グラフや図表の説明を英語で記述できる。	
		7週	技術英語表現(3):数式の英語表現 (自学自習:配付資料の数式の英語表現を復習する)	科学技術論文で用いられる数式を英語で表現できる。	
		8週	中間試験 (自学自習:論文の基本構成と英語表現について復習し、試験の間違いを直す)	科学論文の構成、科学技術英語表現について理解できる。	
	4thQ	9週	論文紹介(1):関連研究の論文の読解 (自学自習:関連研究の論文を選び、読解する)	特別研究の関連研究の論文を読み、概要をまとめることができる。	
		10週	論文紹介(2):関連研究の論文の発表 (自学自習:関連研究の論文を要約して発表準備をする)	特別研究の関連研究の論文の概要を説明することができる。	

	11週	特別研究の英語タイトルとアブストラクトの作成と発表 (自学自習：特別研究のタイトルとアブストラクトを作成する)	特別研究のタイトルとアブストラクトについて、英語で作成し発表することができる。
	12週	特別研究について、口頭発表資料作成(1) (自学自習：特別研究の内容をIMRAD形式でまとめる)	特別研究の内容について、IMRAD構成で口頭発表資料を作成できる。
	13週	特別研究について、口頭発表資料作成(2) (自学自習：特別研究のPPTを作成する)	特別研究の内容について、IMRAD構成で口頭発表資料を作成できる。
	14週	特別研究について、プレゼンテーション (自学自習：英語で口頭発表する準備を行う)	特別研究の内容について、英語でプレゼンテーションし、他の受講者と討議できる。
	15週	総まとめ (自学自習：定期試験の間違いを直す)	科学論文の構成、科学技術英語表現について理解し、研究内容を発表することができる。
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合		20	40	40	100
分野横断的能力		20	40	40	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	解析力学
科目基礎情報					
科目番号	91011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「理・工基礎 解析力学」 田辺 行人・品田 正樹 著 (裳華房)				
担当教員	榎本 貴志				
目的・到達目標					
<p>(ア) 簡単な系について、仮想仕事の原理を用いて、系のつり合いの条件を調べることができる。</p> <p>(イ) 系の安定・不安定を調べることができる。</p> <p>(ウ) ダランベールの原理を使って、運動力学から静力学の視点に移すことができる。</p> <p>(エ) 簡単な系の運動について、ラグランジュの運動方程式を立て、求めることができる。</p> <p>(オ) 連成振動をする質点系について、ラグランジュの運動方程式を立て、基準振動数を評価できる。</p> <p>(カ) 物理的な意味を理解した上で、オイラーの微分方程式を使うことができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する応用問題を解くことができる。	仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができる。	仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができない。		
評価項目(イ)	ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての応用問題を解くことができる。	ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての基礎的な問題を解くことができる。	ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての基礎的な問題を解くことができない。		
評価項目(ウ)	オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する応用問題を解くことができる。	オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する基礎的な問題を解くことができる。	オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する基礎的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。</p> <p>JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力</p> <p>本校教育目標 ② 基礎学力</p>					
教育方法等					
概要	本講義では、解析力学を学ぶ。力学の大きな流れから言うと、解析力学は、ニュートン力学 (古典力学) と量子力学の掛け橋的な立場にある。解析力学の一番の特徴は、系の運動を、運動力学といった視点から静力学という視点に移し変えて議論する点にある。また、質点系の位置・速度・加速度や力といった観点ではなく、質点系のエネルギーという観点から、系を取り扱うという特徴もある。これにより、より複雑な質点系の運動を取り扱うことができるのである。				
授業の進め方と授業内容・方法	各項目における理論的概要を解説した後、その手法に特化した演習を行う。また、この理解度を確認するために課題を設定する。				
注意点	古典力学をある程度理解しているという前提の上で、講義を行う。自学自習内容: 講義の内容について、毎回復習を行うこと。また、項目の節目において、理解度の確認のための課題を出すので、必ず提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	仮想仕事の原理: 束縛力と既知力, 仮想変位, 仮想仕事の原理 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	力の分類 (束縛力・既知力) ができ、仮想仕事の概念が説明	
		2週	仮想仕事の原理: 束縛力と既知力, 仮想変位, 仮想仕事の原理 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	簡単な系で、仮想変位を調べ、仮想仕事を求めることができる。	
		3週	仮想仕事の原理: 束縛力と既知力, 仮想変位, 仮想仕事の原理 (自学自習内容) 授業内容の復習を行い、課題をやってくること。	既知力が保存力であるような系について、位置エネルギーから仮想仕事を求めることができる。また、系の平衡の安定性について判別できる。	
		4週	ダランベールの原理: ダランベールの原理と慣性力 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	ダランベールの原理を使って、運動学的視点から静力学的視点に写すことができる。	
		5週	ダランベールの原理: ダランベールの原理と慣性力 (自学自習内容) 授業内容を復習し、課題をやってくること。	定常状態にある系について、ダランベールの原理、および仮想仕事の原理を用いて、仮想仕事を求めることができる。	
		6週	ラグランジュの第一種運動方程式: 未定乗数法, ラグランジュの第一種運動方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	簡単な系について、ラグランジュの未定乗数法を適用することができる。	
		7週	ラグランジュの第一種運動方程式: 未定乗数法, ラグランジュの第一種運動方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	ラグランジュの第一種運動方程式を用いて、具体的な運動方程式を求め、それを解くことができる。	
		8週	ラグランジュの第二種運動方程式: 一般座標と一般化された力, ラグランジアン, ラグランジュの運動方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	座標の一般化と、それに伴う力の一般化の概念が理解できる。	
	2ndQ	9週	ラグランジュの第二種運動方程式: 一般座標と一般化された力, ラグランジアン, ラグランジュの運動方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	座標の一般化に応じて、仮想仕事の原理の式を書き換えることができる。	

10週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	1個の質点から成る振動系について，ラグランジュの第2種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
11週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	2個以上の質点が作用し合いながら振動する系について，第2種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
12週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	連成振動系の基準振動を求め，それぞれの振動モードに対する振動現象を理解することができる。
13週	変分法： 変分法，オイラーの微分方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	物理量の極値を求めるに当たり，オイラーの微分方程式をどのように使うか説明できる。
14週	変分法： 変分法，オイラーの微分方程式 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	歴史上有名な諸問題（最速降下線など）について，オイラーの微分方程式がどのように使われているか説明することができる。
15週	ハミルトンの原理： ラグランジュ関数，ハミルトンの原理 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	束縛条件の下での極値問題の取り扱いの仕方について説明できる。
16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	



豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	線形代数学
科目基礎情報					
科目番号	91012		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「理工系の入門線形代数」 碓野敏博・原裕子・山辺元雄 (学術図書出版社) ISBN:978-4-87361-219-5				
担当教員	吉澤 毅				
目的・到達目標					
<p>(ア) 行列の基本的な演算 (定数倍、加法、減法や積等) ができる。</p> <p>(イ) 連立1次方程式を、行列を用いて表現し、解くことができる。</p> <p>(ウ) 行列の階数の概念を理解し、具体的な行列の階数を求めることができる。</p> <p>(エ) 行列式の性質を理解したうえで行列式の値を求めることができる。</p> <p>(オ) ささまざまな正則行列の逆行列を求めることができる。</p> <p>(カ) ベクトルの線形従属・線形独立の概念を理解し、幾つかのベクトルが線形独立か線形従属かを判定できる。</p> <p>(キ) 線形空間に関する諸概念を理解している。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	行列や連立1次方程式に関する発展的な問題が解ける。		行列や連立1次方程式に関する基礎的な問題が解ける。		行列や連立1次方程式に関する基礎的な問題が解けない。
評価項目2	行列式に関する発展的な問題が解ける。		行列式に関する基礎的な問題が解ける。		行列式に関する基礎的な問題が解けない。
評価項目3	線形空間や線形写像についての発展的な問題が解ける。		線形空間や線形写像についての基礎的な問題が解ける。		線形空間や線形写像についての基礎的な問題が解けない。
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。</p> <p>JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力</p> <p>本校教育目標 ② 基礎学力</p>					
教育方法等					
概要	この授業では、行列やベクトルといった考え方相互の有機的な関係を理解し、さらにそれらの計算技法の背後にある内在的な性質を理解することを目指す。このことができて初めて線形代数学を理工学の方で縦横に応用することが可能となる。一般に「線形」な事象はその解析及び理解が比較的容易であり、線形代数学で学ぶ個々の事柄が大いに役に立つことは言うまでもない。受講者諸氏には行列やベクトルに関する1つ1つの計算技術をしっかりと身につけた上で、線形代数学が対象とする「線形性」とはいったい何なのかを理解して欲しい。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	必要に応じて復習は行うが、「平面・空間ベクトル」や「行列」、それらの「和」・「差」・「定数倍」、行列の「積」等について、その定義および簡単な性質は既知であるものとして授業を進める。(自学自習内容) 授業ごとにならざる復習を行い、学習内容の理解に努めること。授業内容に関する課題を適宜提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行列：行列の基礎概念やその演算に関する事項の復習 (自学自習内容) 教科書で基本事項の予習・復習を行う。	行列に関する基礎概念を理解し、その演算ができる。	
		2週	連立1次方程式：行列の基本変形と連立方程式の解法 (自学自習内容) 教科書で連立方程式の予習・復習を行う。	行列の基本変形を理解し、連立1次方程式を解くことができる。	
		3週	連立1次方程式：行列の基本変形と連立方程式の解法 (自学自習内容) 連立方程式の課題に取り組む。	行列の基本変形を理解し、連立1次方程式を解くことができる。	
		4週	連立1次方程式：掃き出し法による逆行列の計算 (自学自習内容) 逆行列の課題に取り組む。	掃き出し法による逆行列の計算ができる。	
		5週	連立1次方程式：階数と連立方程式の解の関係の理解 (自学自習内容) 階数と連立方程式の課題に取り組む。	(拡大) 係数行列の階数と連立1次方程式の解の関係について理解する。	
		6週	行列式：行列式の基本性質と行列式の計算 (自学自習内容) 教科書で行列式の予習・復習を行う。	行列式の基本性質について理解し、行列式の計算ができる。	
		7週	行列式：行列式の基本性質と行列式の計算 (自学自習内容) 行列式の課題に取り組む。	行列式の基本性質について理解し、行列式の計算ができる。	
		8週	行列式：逆行列の計算とクラメル公式 (自学自習内容) クラメル公式による逆行列の計算の課題に取り組む。	逆行列の計算とクラメル公式について理解する。	
	2ndQ	9週	線形空間：線形空間の定義および例 (自学自習内容) 教科書で線形空間の予習・復習を行う。	線形空間の定義および例を理解する。	
		10週	線形空間：線形従属と線形独立、線形空間の次元 (自学自習内容) 教科書で線形従属・独立、次元の予習・復習を行う。	線形従属と線形独立、線形空間の次元について理解する。	
		11週	線形空間：線形従属と線形独立、線形空間の次元 (自学自習内容) 線形従属・独立、次元の課題に取り組む。	線形従属と線形独立、線形空間の次元について理解する。	
		12週	線形写像：線形写像とその表現行列 (自学自習内容) 教科書で線形写像と表現行列の予習・復習を行う。	線形写像とその表現行列について理解する。	
		13週	線形写像：線形写像とその表現行列 (自学自習内容) 線形写像と表現行列の課題に取り組む。	線形写像とその表現行列について理解する。	

	14週	総合演習（自学自習内容）授業の演習問題の復習を行う。	問題演習によって理解を確認する。
	15週	総合演習（自学自習内容）授業の演習問題の復習を行う。	問題演習によって理解を確認する。
	16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		60	40	100	
分野横断的能力		60	40	100	

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	生物化学
科目基礎情報				
科目番号	91018	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	「生物を知るための生化学 (第4版)」池北雅彦ほか (丸善) ISBN:978-4-621-30222-4 / プリントを配布			
担当教員	三浦 大和			

### 目的・到達目標

- (ア)細胞を構成する物質とその役割を説明できる。  
(イ)単糖類や多糖類の構造が表記でき、多糖類のグリコシド結合や生体内における役割を説明できる。  
(ウ)糖の代謝について仕組みを理解でき、エネルギー効率を算出できる。  
(エ)側鎖によるアミノ酸の分類ができ、アミノ酸の化学的な性質およびタンパク質のペプチド結合を説明することができる。  
(オ)タンパク質の高次構造形成に関与する化学結合および相互作用を理解し、説明できる。  
(カ)タンパク質の立体構造と機能発現の関連性を理解できる。  
(キ)核酸の成分と種類を理解し、DNAとRNAの役割を説明できる。  
(ク)遺伝子であるDNAの複製と修復の仕組みを理解し、説明できる。  
(ケ)DNAの情報がタンパク質合成に用いられる仕組みを理解し、説明できる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	細胞を構成する物質とその役割について具体的な物質名とその特徴をまじえて働きを説明できる。	細胞を構成する物質とその役割を説明できる。	細胞を構成する物質やその役割についての説明ができない。
評価項目(イ)	単糖類や多糖類の構造が記述し、その構造的特徴を説明でき、グリコシド結合や生体内における役割を化合物名を挙げ説明できる。	単糖類や多糖類の構造が表記でき、多糖類のグリコシド結合や生体内における役割を説明できる。	単糖類モノ糖は多糖類の構造が表記できず、その役割の概要も説明できない。
評価項目(ウ)	糖の代謝について仕組みを具体的な化合物名を挙げ説明し、そのエネルギー効率の算出ができる。	糖の代謝について仕組みを理解でき、エネルギー効率を算出できる。	糖の代謝について仕組みの概要を理解できていない。

### 学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。  
JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力  
本校教育目標 ② 基礎学力

### 教育方法等

概要	生物の行っている複雑かつ精巧な機能は、生体を構成する最小単位である細胞の集積・組織化によって発現される。本講義では、科学的視点から細胞を構成する生体物質の構造と性質について学び、各々の生体物質がその性質を生かし、どのようにして機能を獲得しているか理解を深め、細胞の仕組みに関する基礎的で不可欠な見識を養う。
授業の進め方と授業内容・方法	講義形式で行い、適宜プレゼン課題を行う。
注意点	化学IIBと化学IIIの基本的な内容を理解できていることが望ましい。

### 選択必修の種別・旧カリ科目名

### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義ガイダンス・講義概要説明と生命の起源 (自学自習内容) 授業内容の予習・復習を行うこと。	生物の分類と生物進化を理解する。
	2週	生物を構成する元素と細胞内小器官の構造と働き (自学自習内容) 授業内容の予習・復習を行い課題を提出すること。	生物を構成する主要元素から極微量元素の種類と細胞内小器官の構造と働きを理解する。	
	3週	光学異性体 (鏡像異性体) とD, L表記法ならびに絶対配置表記 (自学自習内容) 授業内容の予習・復習を行い課題を提出すること。	生体構成化合物の糖・アミノ酸の光学異性体の表記法を理解し表記できる。	
	4週	糖とその代謝I: 生体に含まれる単糖 (6単糖, 5単糖) (自学自習内容) 授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。	生体構成単糖 (6単糖, 5単糖) の種類と構造、性質を理解する。	
	5週	糖とその代謝II: 生体を構成する多糖類とグリコシド結合 (でんぷん, グリコーゲン, セルロース) (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	生体構成多糖類 (でんぷん, グリコーゲン, セルロース) の種類と構造、性質を理解する。	
	6週	糖とその代謝III: エネルギー獲得の代謝メカニズム (解糖系・TCA回路・電子伝達系と酸化的リン酸化) (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	糖の代謝を理解する。(細胞内呼吸と電子伝達系・酸化的リン酸化の概略を説明できる。)	
	7週	脂肪酸の代謝: エネルギー獲得の代謝メカニズム (β酸化) (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	脂肪酸の代謝 (β酸化) を理解し、ATP量を算出できる。	
	8週	タンパク質I: アミノ酸の分類および化学的・生物学的性質とタンパク質のペプチド結合 (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	生体構成アミノ酸の種類と構造、性質を理解する。	

2ndQ	9週	タンパク質II：タンパク質の一次構造および高次構造と機能の関係 (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	安定寄与因子をまじえ一次から四次構造を説明でき、その高次構造の特徴を表記できる。
	10週	核酸とタンパク質の生合成I：細胞核内の核酸(DNAとRNA)の構造 (DNAの二重らせん構造と相補的塩基対) (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	DNAの半保存的複製の仕組みを理解する。
	11週	核酸とタンパク質の生合成II：核酸の複製・修復メカニズム (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	核酸の複製・修復メカニズムを理解する。
	12週	核酸とタンパク質の生合成III：遺伝コードと遺伝発現のメカニズム (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	点突然変異 (スニップス) と遺伝発現のメカニズムを理解する。
	13週	核酸とタンパク質の生合成IV：遺伝法則と遺伝子疾患・遺伝子操作 (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	遺伝法則と代表的遺伝子疾患について理解し、遺伝子操作の原理を説明できる。
	14週	核酸とタンパク質の生合成V：タンパク質の生合成メカニズム (自学自習内容) 授業後に必ず配布資料で復習し、学習内容の理解を深めること。	DNAとRNAの役割を理解し、セントラルドグマの流れを説明できる。
	15週	前期のまとめ	
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		75	25	100	
分野横断的能力		75	25	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	原子物理学
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	91022	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない/最先端の科学記事と授業プリントを配布				
担当教員	高村 明				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア)ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。 (イ)放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。 (ウ)原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	ヤングの干渉実験やブラック反射の問題が解ける。	ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。	ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解けない。		
評価項目(イ)	放射性元素に関連した問題が解ける。	放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。	放射性元素に関連した基礎的問題が解けない。		
評価項目(ウ)	原子モデルや光電効果に関連した問題が解ける。	原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。	原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解けない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
<b>教育方法等</b>					
概要	原子・分子といったミクロの世界ではニュートン力学、マクスウエルの電磁気学、流体力学などはもはや成立せず、人間が物質に対してもつ自然な感覚や考え方は成立しない。ミクロな世界はマクロな世界と違って、粒子と波動の性質を合わせ持つことが本質あることが20世紀の物理学で明らかになった。粒子は大きさがなく、エネルギーや運動量を持つのに対し、波動は広がりがあり、波の強さや波長を持つので、両者は異なるからのである。この講義では20世紀に発展したミクロの世界の物理学を学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	最先端の科学記事と授業プリントを配布。授業内容に関する演習プリントを毎回提出すること。				
注意点	授業後に科学記事と授業プリントを必ず復習し、学習内容の理解を深めること。				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
後期	3rdQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	既習事項の確認	本科の内容を総括的に理解する	
		2週	力学の復習。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	力学の基礎的な問題が解ける	
		3週	電気の復習。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	電気の基礎的な問題が解ける	
		4週	力学と電気の総復習	力学と電気の問題が解ける	
		5週	ヤングの干渉実験とブラック反射。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	ヤングの干渉実験とブラック反射を理解する	
		6週	原子核と電子からなる原子。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	原子の構造を理解する	
		7週	問題演習。演習プリントを提出すること。	これまでの内容を総括的に理解する	
	8週	放射性元素と年代測定。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	放射性元素の意味を理解する		
	4thQ	9週	光電効果と光の粒子性。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	光電効果の意味を理解する	
		10週	問題演習。演習プリントを提出すること。	これまでの内容を総括的に理解する	
		11週	総合演習。総復習プリントを提出すること。	これまでの内容を総括的に理解する	
		12週	原子スペクトルとボーアの量子条件。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	ボーアの量子条件を理解する	
		13週	ド・ブロイの物質波と電子顕微鏡。授業内容に関する演習プリントを提出すること。	ド・ブロイの物質波の意味を理解する	
		14週	問題演習。演習プリントを提出すること。	これまでの内容を総括的に理解する	
		15週	総合演習。総復習プリントを提出すること。	これまでの内容を総括的に理解する	
16週					
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標</b>					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
	定期試験	課題	合計		
総合評価割合	60	40	100		
分野横断的能力	60	40	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	応用解析学 I
科目基礎情報					
科目番号	91023		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない。 / 教材プリントを配布				
担当教員	勝谷 浩明				
目的・到達目標					
(ア)ラプラス変換の定義や性質を理解する。 (イ)ラプラス変換の計算ができる。 (ウ)ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式を解ける。 (エ)フーリエ級数の定義や性質を理解する。 (オ)フーリエ級数の計算ができる。 (カ)フーリエ変換の定義や性質を理解する。 (キ)フーリエ変換の計算ができる。 (ク)フーリエ級数・フーリエ変換を用いて重要な偏微分方程式を解く方法を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(1)	ラプラス変換の性質及び計算法を理解して、微分方程式の解法に活用できる。	ラプラス変換の性質及び計算法を理解している。	ラプラス変換の性質及び計算法を理解していない。		
評価項目(2)	フーリエ級数の性質及び計算法を理解して、偏微分方程式の解法に活用できる。	フーリエ級数の性質及び計算法を理解している。	フーリエ級数の性質及び計算法を理解していない。		
評価項目(3)	フーリエ変換の性質及び計算法を理解して、偏微分方程式の解法に活用できる。	フーリエ変換の性質及び計算法を理解している。	フーリエ変換の性質及び計算法を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	ラプラス変換やフーリエ変換は、自動制御や電気回路や構造物の振動解析など工学の様々な分野で利用される重要な手法である。本科目では、フーリエ級数も含めて、これらの定義や性質を学び、計算法を習得する。そして応用として、工学的に重要な微分方程式の解法を学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	配付した授業プリントに沿って講義する。				
注意点	(自学自習内容) 配付する教材プリントを読んで予習・復習し、プリントに記載された問題を解くこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	微分積分の復習 (課題: 積分の計算)	科目の理解に必要な微分積分の計算などを理解する。	
		2週	ラプラス変換の定義 (課題: 定義に直接従うラプラス変換の計算)	ラプラス変換の定義を理解する。	
		3週	ラプラス変換の性質	ラプラス変換の性質を理解する。	
		4週	ラプラス変換の計算 (課題: 定理を用いるラプラス変換の計算)	定理を用いてラプラス変換の計算ができるようになる。	
		5週	逆ラプラス変換 (課題: 逆ラプラス変換の計算)	逆ラプラス変換の計算ができるようになる。	
		6週	ラプラス変換を用いる定数係数線形微分方程式の解法 (課題: ラプラス変換を用いる定数係数線形微分方程式の解法)	ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式の初期値問題を解けるようになる。	
		7週	フーリエ級数の定義	周期 $2n$ の周期関数のフーリエ級数の定義を理解する。	
		8週	フーリエ級数の拡張	周期関数のフーリエ級数及びフーリエ正弦級数及びフーリエ余弦級数を理解する。	
	4thQ	9週	フーリエ級数の計算 (課題: フーリエ級数の計算)	簡単な関数のフーリエ級数を計算できるようになる。	
		10週	フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法 (課題: フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法)	フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法を理解する。	
		11週	複素形フーリエ級数 (課題: 複素形フーリエ級数の計算)	複素形フーリエ級数を理解する。	
		12週	フーリエ変換の定義	複素形フーリエ級数からフーリエの積分公式が導かれることを理解する。	
		13週	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の性質を理解する。	
		14週	フーリエ変換の計算 (課題: フーリエ変換の計算)	フーリエ変換の計算を理解する。	
		15週	フーリエ変換を用いる偏微分方程式の解法	フーリエ変換を用いる偏微分方程式の解法を理解する。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	40	20	40	100
分野横断的能力	40	20	40	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	都市地域解析論
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	92023		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない/適宜、プリントを配布する				
担当教員	佐藤 雄哉				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア)空間解析を行うことの意味を理解し、説明できる。 (イ)GISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。 (ウ)地図の種類や表現手法を説明できる。 (エ)統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。 (オ)空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。 (カ)地図などを用いて地域の特性把握に取り組むことができる。 (キ)空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。					
<b>ルーブリック</b>					
		理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		空間解析を行うことの意味その実際、GISの仕組みとその有用性について理解し、応用的な事例について説明できる。	空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。	空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解しておらず、実例と関連付けて説明できない。	
評価項目(イ)		地図の種類や表現手法を説明できるとともに、その活用事例を考察することができる。また、統計データの整備状況とその活用実態を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。さらに、空間解析手法を活用した応用的な地域分析について理解し、実際に取り組める。	地図の種類や表現手法を説明できるとともに、統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。	地図の種類や表現手法を説明できず、統計データの整備状況を理解しておらず、実地域の統計データを使用して現状を把握できていない。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解しておらず、実際に取り組めない。	
評価項目(ウ)		空間的データから複合的に地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図など複数の既存の画像データなどを用いて地域特性を把握することができる。	空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図を用いて地域特性を把握することができる。	空間的データから地域の課題や特徴を把握することができない。また、地図を用いて地域特性を把握することができない。	
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力					
<b>教育方法等</b>					
概要	都市・地域の情報を地理的に分析し、その科学的な結果を根拠とし都市計画や都市政策における意思決定に反映させることは重要である。現在、産官問わず都市計画に係る多くの実務においてGIS (Geographic Information System : 地理情報システム) が活用されており、今後なお一層の利活用が期待される。本科目では、都市・地域の課題を明らかにするための知識や技能の習得を目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法	本講義では、定量的に都市・地域を解析するための理論を学ぶとともに、実際に身近な都市・地域のデータを分析することにより、都市・地域の課題を明らかにするための手法を学ぶ。				
注意点	(自学自習内容) 授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	地理情報システム (GIS) の概要: 地図の表現手法 (凡例・縮尺)、地理情報データの構成要素、投影法 (復習: GISの活用事例)	地理情報システム (GIS) の概要を理解している。	
		2週	GISの適用事例: 防災、防犯、マーケティングなど (復習: 投影法・測地系・座標系)	GISの適用事例を考察できる。	
		3週	地理情報のデータベース化: ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など (復習: GISの利用事例)	地理情報のデータベース化について説明できる。	
		4週	地理情報のデータベース化: ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など (復習: 一般図と主題図の違い)	地理情報のデータベース化について説明できる。	
		5週	地域の問題の可視化: 統計データ (国勢調査等) を活用した小地域の分析など (復習: ポロノイ分割)	地域の問題を可視化するための分析手法を説明できる。	
		6週	地域の問題の可視化: 統計データ (国勢調査等) を活用した小地域の分析など (復習: 面積按分の手法)	地域の問題を可視化するための分析手法を用いて、実際に分析に取り組める。	
		7週	空間解析手法の概要と実践: 属性検索、ポロノイ分割、面積按分など (復習: 国勢調査の小地域)	空間解析手法の概要について理解している。	
		8週	空間解析手法の概要と実践: 属性検索、ポロノイ分割、面積按分など (復習: ArcGISの普及)	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。	
	4thQ	9週	空間解析手法の概要と実践: 属性検索、ポロノイ分割、面積按分など (復習: 空間解析手法)	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。	
		10週	空間解析手法の概要と実践: 属性検索、ポロノイ分割、面積按分など (復習: パツファとインターセクト)	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。	



		11週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：幾何補正の考え方）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
		12週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：空間解析手法）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
		13週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：ArcGISによる幾何補正）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
		14週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：ArcGISで利用できる公開データ）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
		15週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：ArcGISで利用できる公開データ）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
		16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	20	30	100
分野横断的能力	50	20	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報				
科目番号	92311	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習	単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1	
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6	
教科書/教材	特に指定しない			
担当教員	都築 啓太			

目的・到達目標				
(ア)業務の内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 (イ)配属先の指導者の指示に従って、安全・正確に業務を行うことができる。 (ウ)作業内容と成果を要領よく文章にまとめることができる。 (エ)作業を通じて気が付いた点、自己の反省すべき点を指摘することができる。 (オ)作業内容、自己の習得した事柄を、視聴覚教材等を用いて口頭で発表することができる。				

ルーブリック				
	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)	業務の内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解できている。	業務の内容について組織上の役割または技術的な内容から理解できている。	業務の内容を理解できていない。	
評価項目(イ)	配属先の指導者の指示に従って、安全・正確に業務を行うことができる。	安全に業務を行うことができる。	安全・正確に業務を行うことができない。	
評価項目(ウ)	作業内容と成果を要領よく文章にまとめることができる。	作業内容と成果を文章にまとめることができる。	作業内容と成果を文章にまとめることができない。	
評価項目(エ)	作業を通じて気が付いた点、自己の反省すべき点を指摘することができる。	作業を通じて気が付いた点を指摘することができる。	作業を通じて気が付いた点、自己の反省すべき点を指摘することができない。	
評価項目(オ)	作業内容、自己の習得した事柄を、視聴覚教材等を用いて他者が理解しやすい形で口頭発表することができる。	作業内容、自己の習得した事柄を、視聴覚教材等を用いて口頭で発表することができる。	作業内容、自己の習得した事柄を、視聴覚教材等を用いて口頭で発表することができない。	

学科の到達目標項目との関係				
学習・教育到達度目標 B1 与えられた問題を分析・モデル化し、解決方法を立案し、その有効性をコンピュータや測定装置を使って確かめることができる。 学習・教育到達度目標 B4 さまざまなデータ(数値・文字・画像・音声・知識など)に対し、コンピュータを用いて実際に解析・処理することができる。 学習・教育到達度目標 C1 作ったものが社会に与える影響を正しく認識し、技術者としての倫理観をもっている。 学習・教育到達度目標 C4 日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができる。 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 本校教育目標 ①ものづくり能力 本校教育目標 ③問題解決能力 本校教育目標 ⑤技術者倫理				

教育方法等				
概要	情報工学関連の一般企業での職場体験や自治体等が主催するプロジェクトへの参加を通じて、自分の学んだ工学的知識や専門技術が、社会の中でどのように生かされているかを知るとともに、社会の中における技術者のあり方を学び、社会の一員としての自覚や責任感を持たせることを目的とする。			
授業の進め方と授業内容・方法	企業等で実習をおこない、最後に報告書ならびにプレゼンテーションで実習内容を報告する。			
注意点				

選択必修の種別・旧カリ科目名				
----------------	--	--	--	--

授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解。	技術的側面と組織全体での業務役割の理解ができる。
		2週	配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解。	技術的側面と組織全体での業務役割の理解ができる。
		3週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		4週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		5週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		6週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		7週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		8週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
	2ndQ	9週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		10週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		11週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		12週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		13週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		14週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		15週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		16週		

後期	3rdQ	1週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		2週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		3週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		4週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		5週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		6週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		7週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		8週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
	4thQ	9週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		10週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		11週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		12週	実務作業：設計、研究、製造など。	設計、研究、製造などができる。
		13週	報告書の作成：作業内容、インターンシップから習得した事柄、反省点等の記述。	作業内容、インターンシップから習得した事柄、反省点等の記述ができる。
		14週	報告書の作成：作業内容、インターンシップから習得した事柄、反省点等の記述。	作業内容、インターンシップから習得した事柄、反省点等の記述ができる。
		15週	報告会でのプレゼンテーション：インターンシップの内容をまとめ、限られた時間内で視聴覚機材を用いて報告会を行う。	インターンシップの内容をまとめ、限られた時間内で視聴覚機材を用いて報告会を行うことができる。
		16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		実習報告書	実習報告会発表	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	情報科学実験
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	95002	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験	単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1		
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6		
教科書/教材	/講義の都度、適宜プリントを配付する				
担当教員	稲垣 宏				
<b>目的・到達目標</b>					
<p>(ア)ものづくりのテーマの目標にあわせて、専門知識を用いた技術提案ができる。</p> <p>(イ)専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する。</p> <p>(ウ)構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる。</p> <p>(エ)ものづくりの工程時に発生した問題に解決案を提案できる。</p> <p>(オ)自主的、継続的なグループ作業を行った結果、企画から完成までの過程を総括し報告することができる。</p>					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	課題に対して、専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現できる	課題に対して、専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い機能を実現できる	課題に対して、相互協力により信頼性の高い機能を実現できない		
評価項目(イ)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	生産システムを制御するための基本的なプログラムの開発ができない		
評価項目(ウ)	自主的、継続的なグループ作業を行った結果、企画から完成までの過程を総括し報告することができる	企画から完成までの過程を総括し報告することができる	企画から完成までの過程を総括し報告できない		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<p>学習・教育到達度目標 B2 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合により、問題を的確に把握し、問題解決手法を自ら立案・推進できる。</p> <p>学習・教育到達度目標 B3 社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有する。</p> <p>学習・教育到達度目標 B4 さまざまなデータ(数値・文字・画像・音声・知識など)に対し、コンピュータを用いて実際に解析・処理することができる。</p> <p>学習・教育到達度目標 C4 日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができる。</p> <p>JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力</p> <p>JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <p>JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力</p> <p>JABEE g 自主的、継続的に学習する能力</p> <p>JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <p>JABEE i チームで仕事をするための能力</p> <p>本校教育目標 ①ものづくり能力</p>					
<b>教育方法等</b>					
概要	この科目は、情報化社会で必要不可欠なデジタル技術を、ものづくりの視点で基礎から学ぶことによって、実際の業務で必要な機械・電気・情報の幅広い専門知識と、専門外の領域への配慮とコミュニケーションを通じて、プロジェクトマネージャーとして必要な管理能力を学ぶ実習形式の授業である。本実験でものづくり工程の経験を通して自主的、継続的に学習していくための能力を身につける。なお、全30週のうち、第15週(予定)の授業では、ものづくり企業の技術者から製造設備開発に必要な基礎スキルについて、実践的な技能研修を受ける。				
授業の進め方と授業内容・方法	本実験は最初から最後まですべて学生が主体となって取り組み、ものづくり工程の経験を通して自主的、継続的に学習していくための能力を身につける。				
注意点	機械、電気、情報の3分野の学生と、企業技術者が共同して、一つのテーマに取り組む。必修				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、安全指導、ものづくり工程の企画・構想	ものづくりのテーマの目標にあわせて、専門知識を用いた技術提案ができる	
		2週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		3週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		4週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		5週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		6週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		7週	要素技術研修(電子・機械・設計開発を中心にして)	専門分野外の機能を理解し、相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する	
		8週	要素技術研修(電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	
	2ndQ	9週	要素技術研修(電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	
		10週	要素技術研修(電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	
		11週	要素技術研修(電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	
		12週	要素技術研修(電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして)	構成部品の設計・製作、生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	

後期		13週	要素技術研修（電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして）	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		14週	要素技術研修（電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして）	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		15週	要素技術研修（生産現場における機械設備の保全管理など）	製造設備開発に必要なスキルの実践的な技術講習を受ける
		16週		
	3rdQ	1週	要素技術研修（電子・情報・ソフトウェア開発を中心にして）	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		2週	プロジェクト実習	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる
		3週	要素技術研修（電子・機械・設計開発を中心にして）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		4週	プロジェクト実習	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる
		5週	プロジェクト実習	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		6週	プロジェクト実習	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		7週	プロジェクト実習	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		8週	プロジェクト実習	ものづくり工程時に発生した問題の解決案を提示できる
	4thQ	9週	プロジェクト実習	ものづくり工程時に発生した問題の解決案を提示できる
		10週	プロジェクト実習	ものづくり工程時に発生した問題の解決案を提示できる
		11週	プロジェクト実習	ものづくり工程時に発生した問題の解決案を提示できる
		12週	プロジェクト実習	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる
13週		プロジェクト実習	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる	
14週		プロジェクト実習（報告会）	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる	
15週		プロジェクト実習（反省と総括）	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる	
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題		合計	
総合評価割合		100		100	
専門的能力		100		100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	コンピュータシステム
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	95011	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない/教材用プリント配布				
担当教員	藤原 孝洋				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア)コンピュータ・インターネットの歴史に関する基礎的な知識がある。 (イ)インターネットのセキュリティやモラルに関する基礎的な知識がある。 (ウ)コンピュータやインターネットに関係する基礎的な法律の知識がある。 (エ)コンピュータシステムの最新の応用例について、具体的に説明できる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	コンピュータ・インターネットの歴史に関して、具体的な史実を基に説明することができる。	コンピュータ・インターネットの歴史に関して、基本的な流れを説明できる。	コンピュータ・インターネットの歴史に関して、基本的な流れを説明することができない。		
評価項目(イ)	インターネットのセキュリティやモラルに関して、著作権法などを基に適切に説明することができる。	インターネットのセキュリティやモラルに関する基礎的な知識がある。	インターネットのセキュリティやモラルに関する基礎的な知識がない。		
評価項目(ウ)	コンピュータシステムの最新の応用例について、具体例を挙げて、また、自分の考えを交えて、具体的に説明できる。	コンピュータシステムの最新の応用例について、具体例を挙げて説明できる。	コンピュータシステムの最新の応用例について、具体例を挙げて説明することができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 C1 作ったものが社会に与える影響を正しく認識し、技術者としての倫理観をもっている。 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
<b>教育方法等</b>					
概要	この科目は、企業の情報システム部門において製造業向けシステム開発に携わっていた教員が、その経験を活かし、コンピュータシステムを核として急速に発展している現在の情報化社会に対して、それを取り巻く情報関連技術について講義形式で授業を行うものである。ここでは、それぞれの技術の歴史から、最新の動向や今後の課題や展望までを、写真や図を多く利用して、わかりやすく解説する。また、情報モラルや法律に関する話題も取り上げる。				
授業の進め方と授業内容・方法	情報技術に係る歴史から、最新の動向や今後の課題や展望までを、写真や図を多く利用して、わかりやすく解説する。また、情報モラルや法律に関する話題を取り上げ、それに関するディスカッションを行う。				
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。また、興味をもった事柄については、Webや文献等で調べてみる。さらに、コンピュータシステムの技術動向と展望について発表会を行うので、各自でテーマをみつけ調査するとともに、発表資料としてまとめておくこと。				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバスを用いた授業内容の説明、授業を受けるにあたっての心構え、イントロダクション	半年間の学習内容を把握するとともに、最終的な到達目標を意識する。	
		2週	コンピュータシステムの変遷 (自学自習：コンピュータシステムとそのアーキテクチャの変遷について復習する)	コンピュータの歴史の変遷とそのアーキテクチャの変遷について説明することができる。	
		3週	インターネットのしくみとその歴史 (自学自習：インターネットの仕組みと歴史について復習する)	インターネットの登場と進展に関する歴史的な背景と代表的なできごとを説明することができる。	
		4週	情報ネットワーク社会における倫理(1)：事例調査 (自学自習：情報ネットワーク社会の倫理問題の事例を調べる)	情報ネットワーク社会における倫理について説明することができる。	
		5週	情報ネットワーク社会における倫理(2)：発表 (自学自習：倫理問題の事例発表の資料を作成する)	情報ネットワーク社会における倫理について説明し、討議することができる。	
		6週	情報化社会における知的財産権の侵害 (自学自習：知的財産権の侵害に関する事例を調査する)	ネットワーク情報化社会における知的財産権の侵害について説明することができる。	
		7週	ネットワーク犯罪と法律 (自学自習：ネットワーク犯罪の内容と発生状況を調査する)	ネットワーク犯罪の内容と、取り締まる法律について説明することができる。	
		8週	ソーシャルメディアにおける倫理 (自学自習：ソーシャルメディアにおける倫理問題の事例を調べる)	ソーシャルメディアにおける倫理問題について説明することができる。	
	4thQ	9週	情報新技術と倫理(1)：ビッグデータ (自学自習：ビッグデータの活用に潜むリスクについて調べる)	ビッグデータ等新たな情報技術によって生じるリスクについて説明することができる。	
		10週	情報新技術と倫理(2)：個人認証 (自学自習：個人認証技術について調べる)	進化する個人認証技術によって生じるリスクについて説明することができる。	
		11週	ネットワークセキュリティ(1)：基本概念 (自学自習：ネットワークセキュリティの基本概念を復習する)	ネットワークセキュリティに関する基本概念を説明することができる。	
		12週	ネットワークセキュリティ(2)：インシデント事例 (自学自習：インシデント事例を調査する)	ネットワークセキュリティに関するインシデントについて説明することができる。	

	13週	コンピュータシステムの最新技術 (自学自習：AI等の最新技術について調査する)	人工知能やVR等の最新のコンピュータ技術について説明することができる。
	14週	コンピュータシステムの最新技術と倫理 (自学自習：AI等の最新技術に関わる倫理について調査する)	人工知能やVR等の最新のコンピュータ技術に関わる倫理について説明することができる。
	15週	総まとめ (自学自習：定期試験の間違いを直し理解する)	コンピュータシステムやネットワークシステムの利用に関するセキュリティと倫理について理解することができる。
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	デジタル信号処理
科目基礎情報					
科目番号	95012		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「デジタル信号処理システムの基礎」 渡部英二著 (森北出版株式会社) ISBN: 978-4-627-78571-7 / "Digital Signal Processing" Alan V. Oppenheim & Ronald W. Schaffer (Prentice Hall International) ISBN: 978-0132146357				
担当教員	安藤 浩哉				
目的・到達目標					
(ア)アナログ信号のデジタル信号処理システムのブロック図の構成要素とその役割を説明できる。 (イ)伝達関数から、周波数特性(振幅特性、位相特性)を計算できる。 (ウ)基本的なDSPの構成とその働きを説明できる。 (エ)インパルス関数等の基本的な関数のz変換を求めることができる。また、その逆z変換を求めることができる。 (オ)デジタルフィルタを設計できる。 (カ)離散フーリエ変換あるいは高速フーリエ変換して信号のスペクトルを求めるアルゴリズムを理解している。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目 1	FIRフィルタやIIRフィルタの伝達関数を示して周波数特性を計算することができる。	相加平均を利用した簡単なFIRフィルタの伝達関数を示して周波数特性を計算することができる。	伝達関数から周波数特性を計算することすらできない。		
評価項目 2	z変換や逆z変換を計算することができる。	インパルス関数等の基本的な関数についてのz変換や逆z変換を計算することができる。	インパルス関数等の基本的な関数についてのz変換すら計算することすらできない。		
評価項目 3	離散フーリエ変換や高速フーリエ変換して信号のスペクトルを求める手順を説明できる。	離散フーリエ変換して信号のスペクトルを求める手順を説明できる。	離散フーリエ変換して信号のスペクトルを求める手順を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A3 コンピュータネットワークの動作を通信理論の観点から数理的に解析できる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	コンピュータがネットワークで接続された情報化社会では、音声情報や映像信号などのほとんど全ての情報がデジタル化されており、その通信、加工、処理、蓄積が、コンピュータなどを使ってデジタル信号処理される。デジタル信号処理では、プログラムでその処理内容を記述することができるため、システム機能の拡充や改良が容易であり、システムの汎用化やコストパフォーマンスの向上を達成できる。本講義では、このようなデジタル信号処理について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	本講義では、離散時間システムを考える時に役立つz変換について学び、デジタルフィルタの設計やDSPのプログラミングなどを通して、デジタル信号処理の実践的な技術や知識を習得する。				
注意点	「情報科学」教育プログラムの必修科目である。講義や試験では関数電卓を使用する場合があるので持参すること。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。また、授業内容について、決められた期日までの課題(レポート)提出を求める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	シラバスを用いた授業説明、デジタル信号処理の概念、デジタル信号処理の特徴(予習: デジタル信号処理の特徴)	デジタル信号処理の概念、デジタル信号処理の特徴を説明できる。		
	2週	LTIシステム、連続時間関数の表現と離散時間関数の表現、デルタ関数、ステップ関数(予習: LTIシステム、連続時間関数、離散時間関数)	デルタ関数、ステップ関数、畳込みについて、連続時間関数表現と離散時間関数表現のそれぞれで説明できる。		
	3週	入力と出力とインパルス応答の関係、畳込み、DSP(予習: 畳込み、DSP)	入力と出力とインパルス応答の関係が畳込みで表現できることを説明することができる。DSPについて簡単に説明できる。		
	4週	FIRシステムとIIRシステム(予習: FIR, IIR)	FIRシステムとIIRシステムとの違いを説明することができる。		
	5週	FIRシステムとその周波数特性	FIRシステムの伝達関数から、周波数特性(振幅特性、位相特性)を計算できる。		
	6週	IIRシステムとその周波数特性	簡単なIIRシステムの周波数特性を計算で求めることができる。		
	7週	デジタルフィルタ(FIRフィルタ)の設計(予習: FIRフィルタ)	簡単なデジタルフィルタ(FIRフィルタ)を設計することができる。		
	8週	z変換の定義、z変換の簡単な例、時間軸推移に関するz変換、畳込み和に関するz変換(予習: z変換)	z変換の定義やその簡単な例を説明でき、時間軸推移に関するz変換や畳込み和に関するz変換について計算できる。		
	9週	sinやcosのz変換、減衰するsinやcosのz変換、z変換とブロック図との関連性	sinやcosのz変換、減衰するsinやcosのz変換、z変換とブロック図との関連性について説明をすることができる。		
	10週	システムの伝達関数とブロック図とインパルス応答	システムの伝達関数とブロック図とインパルス応答について説明できる。		
	11週	フーリエ級数展開や離散時間関数のフーリエ変換、連続時間信号の標本化、標本化信号のスペクトル、エイリアシング(予習: 標本化、エイリアシング)	フーリエ級数展開や離散時間関数のフーリエ変換について説明できる。		



	12週	伝達関数のインパルス応答とバタワース特性のローパスフィルタの伝達関数	伝達関数のインパルス応答とバタワース特性のローパスフィルタの伝達関数を説明できる。
	13週	インパルス変換法によるデジタルフィルタ（IIRフィルタ）の設計（予習：IIRフィルタ）	インパルス変換法を用いて簡単なデジタルフィルタ（IIRフィルタ）を設計することができる。
	14週	DFT（離散フーリエ変換）の説明と計算結果の意味（予習：DFT）	DFT（離散フーリエ変換）とその計算結果の意味を説明できる。
	15週	周波数間引き型FFT（高速フーリエ変換）と時間間引き型FFTの説明（予習：FFT、周波数間引き、時間間引き）	周波数間引き型FFT（高速フーリエ変換）と時間間引き型FFTの説明をできる。
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
専門的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	ソフトウェア工学
科目基礎情報					
科目番号	95013		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	特に定めなし/enPiT組込みシステム分野教材				
担当教員	木村 勉				
目的・到達目標					
<p>(ア) 要求仕様に従って、UMLにより実行効率を考慮したプログラムを設計できる。</p> <p>(イ) 設計したシステムが実装できる。</p> <p>(ウ) 実装したシステムについて、各種テストが行える。</p> <p>(エ) ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。</p> <p>(オ) ソフトウェアを中心としたシステム開発のプロセスを理解している。</p> <p>(カ) プロジェクト管理の必要性について説明することができる。</p> <p>(キ) システム開発全般について、報告および説明が行える。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	要求仕様から、要求分析、外部設計、内部設計、およびシステム方式設計書について、UMLなどを用いて作製でき、他者への助言ができる。		要求仕様から、要求分析、外部設計、内部設計、およびシステム方式設計書について、UMLなどを用いて作製できる。		要求仕様から、要求分析、外部設計、内部設計、およびシステム方式設計書について、UMLなどを用いて作製できない。
評価項目 2	要求仕様を完全に満足するシステムを実装することができる。		設計したシステムを実装することができる。		設計したシステムを実装できない。
評価項目 3	実装したシステムについて、単体、結合、システムの各種テストが行え、エラーがあったときに、原因分析と他者への報告がわかりやすく行える。		実装したシステムについて、単体、結合、システムの各種テストが行える。		実装したシステムについて、単体、結合、システムの各種テストが行えない。
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 A2 ソフトウェア開発において、数理的理論に基づくスマートな設計ができるとともに、ハードウェアの基本動作を意識した設計ができる。</p> <p>JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力</p> <p>本校教育目標 ① ものづくり能力</p>					
教育方法等					
概要	この科目では、組み込みシステムをベースにシステム開発の全行程を学ぶ。分析、設計の各工程においてはUMLを用いてモデリング開発について学ぶ。C言語でシステムを実装し、LEGOのMindstormを用いてテストを行う。最後に各工程や実装、テストに関して報告を行い、ディスカッションを行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	この授業では、座学と演習を中心に進める。クラス全体で1つのシステムを構築する。設計するシステムをいくつかの機能に分割し、各受講者に割り振る。受講者はそれぞれが担当する部分を設計し、最終的にそれらを組み合わせて1つのシステムを構築する。授業は最初にテキストを用いて、システム設計に関する講義を行う。その後システム設計に関する課題を行う。各自で設計した部分についてはグループでレビューを行い修正する。次の講義の最初に、課題の模範解答を示すので、各自で修正する。				
注意点	アルゴリズムとデータ構造A,B、ソフトウェア設計A,Bを修得していることを前提に講義を進める。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。また、授業内容について、決められた期日までの課題（レポート）提出を求める。ノートPCを持参のこと。astahのインストールおよびCygwinの環境が整っているか、もしくはUSBブートが可能なこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、nxtOSEKについての解説、UMLおよびastahの使い方の復習、要求仕様分析（自学自習内容）ユースケース図（第一段階）の作成とレビュー、開発環境の構築	要求仕様を分析し、ユースケース図が作成できる。さらに学生相互でレビューが行える。	
		2週	nxtOSEKによるMindstormNXTの使用方法（自学自習内容）ユースケース図（第二段階）の作成、サンプルプログラムの実行と確認	システム開発環境を整え、サンプルプログラムが実行できる。	
		3週	システム分析およびシステム方式設計書の書き方について（自学自習内容）システム方式設計書の作成とレビュー	システム方式設計書が作成でき、学生相互によるレビューが行える。	
		4週	クラス図による外部設計について（自学自習内容）外部設計（クラス図）の作成とレビュー	クラス図による外部設計が行え、学生相互によるレビューが行える。	
		5週	アクティビティ図とシーケンス図による外部設計について（自学自習内容）外部設計（アクティビティ図、シーケンス図）の作成とレビュー	アクティビティ図とシーケンス図による外部設計が行え、学生相互によるレビューが行える。	
		6週	クラス図による内部設計について（自学自習内容）内部設計（クラス図）の作成とレビュー	クラス図による内部設計が行え、学生相互によるレビューが行える。	
		7週	ステートマシン図、シーケンス図による内部設計について（自学自習内容）ステートマシン図、シーケンス図の作成とレビュー	ステートマシン図、シーケンス図による内部設計が行え、学生相互によるレビューが行える。	
		8週	アクティビティ図によるプログラム設計について（自学自習内容）アクティビティ図の作成とレビュー	アクティビティ図によるプログラム設計が行え、学生相互によるレビューが行える。	

2ndQ	9週	単体テストについて (自学自習内容) 単体テスト項目票の作成とレビュー	単体テスト項目票を作成し、学生相互によるレビューが行える。
	10週	内部設計からの実装(コーディング)について (自学自習内容) C言語によるコーディング	各担当部分のコーディングを行う。
	11週	結合テストについて (自学自習内容) 結合テスト項目票の作成とレビュー	結合テスト項目票を作成し、学生相互によるレビューが行える。
	12週	システムテストについて (自学自習内容) システムテスト項目票の作成とレビュー	システムテスト項目票を作成し、学生相互によるレビューが行える。
	13週	障害票の作成の意義 (自学自習内容) 単体テストの実行と確認	単体テストが終えている。
	14週	各グループでの結合テスト (自学自習内容) 結合テストの実行と確認	結合テストが終えている。
	15週	システムテストの実施 (自学自習内容) システムの実行と確認	最終的なシステムが完成している。
	16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	論理回路設計
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	95017		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	FPGAボードで学ぶ組み込みシステム開発入門[Intel FPGA編]小林優著 (技術評論社) ISBN:978-4774193885/コンピュータアーキテクチャの教科書、および教材用プリント (電子資料)				
担当教員	仲野 巧				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア)VHDLによる論理回路設計, 機能回路設計が説明でき、シミュレーションができる。 (イ)MIPSマイクロプロセッサが説明でき、FPGAに実装ができる。 (ウ)MIPSのデバッグ回路と階乗計算のアセンブリ言語について説明でき、FPGAに実装ができる。					
<b>ループリック</b>					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	VHDLによる論理回路設計, 機能回路設計が説明でき、シミュレーションができる。		VHDLによる論理回路設計, 機能回路設計が説明できる。		VHDLによる論理回路設計, 機能回路設計が説明できない。
評価項目(イ)	MIPSマイクロプロセッサが説明でき、FPGAに実装ができる。		MIPSマイクロプロセッサが説明できる。		MIPSマイクロプロセッサが説明できない。
評価項目(ウ)	MIPSのデバッグ回路と階乗計算のアセンブリ言語について説明でき、FPGAに実装ができる。		MIPSのデバッグ回路と階乗計算のアセンブリ言語について説明できる。		MIPSのデバッグ回路と階乗計算のアセンブリ言語について説明できない。
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 A1 ハードウェアの基本動作を理論面から解析できるとともに、ソフトウェア的手法を利用してハードウェアを設計できる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
<b>教育方法等</b>					
概要	論理回路設計は、携帯電話や情報家電などのマイクロプロセッサが実装されている組み込みシステムでは、ハードウェアの小型化、低消費電力化するために必要不可欠な技術である。そして、設計した回路は、少量多品種の試作や評価ではFPGA(Field Programmable Gate Array)に実装し、量産では大規模集積回路(LSI)で製品化されている。また、システムの構築では、ハードウェア処理とソフトウェア処理によるシステム設計が必要である。そこで、FPGAへの論理回路やMIPSマイクロプロセッサの実装からアセンブリ言語の設計までについて演習を行いながら学習する。 この科目は企業で組み込みシステムの設計を担当していた教員が、その経験を活かし、ソフトウェアとハードウェアの種類、特徴、設計等について講義・演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方と授業内容・方法	演習した内容を整理してパソコンでワードにまとめ、電子的に提出する。				
注意点	コンピュータアーキテクチャABの単位を修得していることが望ましい。なお、ノートパソコンを利用した演習を行うため、継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。これを確認するための小テストを実施する。また、授業内容について、決められた期日までの課題(レポート)提出を求める。「情報科学」教育プログラムの必修科目である。				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明(評価基準)、FPGA/CPLDの基礎と最新動向:評価ボードの特徴、コンフィギュレーションの意味	評価ボードの特徴が理解できる	
		2週	VHDL設計:VHDLによる論理回路設計とシミュレーション(自学自習でVHDL設計演習)	VHDLによる論理回路設計とシミュレーションができる	
		3週	FPGA実装:PSW,LED,DSW,8セグメントのVHDL設計(自学自習でVHDL設計演習)	PSW,LED,DSW,8セグメントのVHDL設計ができる	
		4週	FPGA実装:PSW,LED,DSW,8セグメントのFPGA実装	FPGAでの評価ができる	
		5週	機能回路設計:タイマー回路の設計1(自学自習でVHDL設計演習)	タイマー回路の設計ができる	
		6週	機能回路設計:タイマー回路の設計2(自学自習でVHDL設計演習)	タイマー回路の設計ができる	
		7週	機能回路設計:タイマー回路の実装	タイマー回路の評価ができる	
		8週	MIPSマイクロプロセッサ:MIPSの仕様、設計とシミュレーション(自学自習でVHDLシミュレーション演習)	MIPSの仕様が理解でき、設計ができる	
	2ndQ	9週	デバッグ回路:デバッグ回路のVHDL設計(自学自習でVHDL設計演習)	デバッグ回路のVHDL設計ができる	
		10週	デバッグ回路:デバッグ回路のFPGA実装	デバッグ回路の評価ができる	
		11週	乗算回路:VHDLによる乗算回路の設計(自学自習でVHDL設計演習)	VHDLによる乗算回路の設計ができる	
		12週	乗算回路:VHDLによる乗算回路の実装	VHDLによる乗算回路の評価ができる	
		13週	MIPS拡張:階乗計算のアセンブリ言語(自学自習でアセンブリ言語演習)	階乗計算のアセンブリ言語が理解できる	
		14週	MIPS拡張:階乗計算のシミュレーション(自学自習でアセンブリ言語演習)	階乗計算のシミュレーションができる	
		15週	MIPS拡張:階乗計算の乗算回路のVHDL設計(自学自習でVHDL設計演習)	階乗計算の乗算回路の評価ができる	

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	40	30	30	100
専門的能力	40	30	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	コンピュータアーキテクチャ 応用
科目基礎情報					
科目番号	95019		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	FPGAボードで学ぶ組み込みシステム開発入門[Intel FPGA編]小林優著 (技術評論社) ISBN:978-4774193885/コンピュータアーキテクチャの教科書、および教材用プリント (電子資料)				
担当教員	仲野 巧				
目的・到達目標					
(ア)ソフトコアCPUの開発環境とプログラムが説明でき、FPGAに実装ができる。 (イ)組み込みシステムの設計が説明でき、FPGAに実装ができる。 (ウ)リアルタイムOSの設計が説明でき、FPGAに実装ができる。					
ループリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	ソフトコアCPUの開発環境とプログラムが説明でき、FPGAに実装ができる。		ソフトコアCPUの開発環境とプログラムが説明できる。		ソフトコアCPUの開発環境とプログラムが説明できない。
評価項目(イ)	組み込みシステムの設計が説明でき、FPGAに実装ができる。		組み込みシステムの設計が説明できる。		組み込みシステムの設計が説明できない。
評価項目(ウ)	リアルタイムOSの設計が説明でき、FPGAに実装ができる。		リアルタイムOSの設計が説明できる。		リアルタイムOSの設計が説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A1 ハードウェアの基本動作を理論面から解析できるとともに、ソフトウェア的手法を利用してハードウェアを設計できる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	コンピュータアーキテクチャは、携帯電話や情報家電などのマイクロプロセッサが実装されている組み込みシステムでは、高機能な製品を開発するために必要不可欠な技術である。そして、設計した回路は、FPGA(Field Programmable Gate Array)に実装し、量産では大規模集積回路(LSI)で製品化されている。また、システムの構築では、ハードウェア処理とソフトウェア処理による機能分割を考慮したシステム設計が必要である。そこで、FPGAへのソフトコアCPUと論理回路の実装、およびC言語で組み込みシステムの設計と演習を行いながら学習する。 この科目は企業で組み込みシステムの設計を担当していた教員が、その経験を活かし、ソフトウェアとハードウェアの種類、特徴、設計等について講義・演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方と授業内容・方法	演習した内容を整理してパソコンでワードにまとめ、電子的に提出する。				
注意点	コンピュータアーキテクチャAB、論理回路設計の単位を修得していることが望ましい。なお、ノートパソコンを利用した演習を行うため、継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。これを確認するための小テストを実施する。また、授業内容について、決められた期日までの課題 (レポート) 提出を求める。「情報科学」教育プログラムの必修科目である。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明 (評価基準)、組み込みシステムの概要	組み込みシステムの概要が理解できる	
		2週	マイコンの基礎: ソフトコアCPUのアーキテクチャと命令セット、開発環境	ソフトコアCPUのアーキテクチャが理解できる	
		3週	マイコンの基礎: ソフトコアCPUのアーキテクチャと命令セット、開発環境	命令セットと開発環境が理解できる	
		4週	ソフトウェア設計: C言語によるプログラム設計 (自学自習でC言語演習)	C言語によるプログラム設計ができる	
		5週	ソフトウェア設計: C言語によるプログラム転送 (自学自習でC言語演習)	実機での評価ができる	
		6週	システム設計: 8セグメント表示のPIO実装 (自学自習でVHDL設計演習)	8セグメント表示のPIO実装ができる	
		7週	システム設計: 8セグメント表示のPIO実装	実機での評価ができる	
		8週	組み込みシステム: セグメントデコーダ回路の設計 (自学自習でVHDL設計演習)	セグメントデコーダ回路の実装ができる	
	4thQ	9週	組み込みシステム: 多機能タイマーの設計 1 (自学自習でVHDL設計演習)	多機能タイマーの設計ができる	
		10週	組み込みシステム: 多機能タイマーの設計 2 (自学自習でVHDL設計演習)	多機能タイマーの設計ができる	
		11週	組み込みシステム: 多機能タイマーの実装	多機能タイマーの評価ができる	
		12週	組み込みシステム: リアルタイムOSの実装とシステム構築	リアルタイムOSの実装とシステム構築ができる	
		13週	組み込みシステム: リアルタイムOSの実装とシステム構築 (自学自習でRTOS演習)	リアルタイムOSの実装とシステム構築ができる	
		14週	組み込みシステム: ハードウェアとソフトウェアの機能分割による多機能タイマーの設計 (自学自習でC言語演習)	ハードウェアとソフトウェアの機能分割による多機能タイマーの設計ができる	
		15週	組み込みシステム: ハードウェアとソフトウェアの機能分割による多機能タイマーの実装	ハードウェアとソフトウェアの機能分割による多機能タイマーの評価ができる	

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	40	30	30	100
専門的能力	40	30	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	応用情報システム
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	95028		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書は特に設定しない。適宜プリントまたはスライドを配布する。				
担当教員	藤原 賢二				
<b>目的・到達目標</b>					
(ア) IoTとは何かを理解し、ハードウェアとソフトウェアが連携するシステムを開発するために必要な要素技術を俯瞰できる。 (イ) IoT機器におけるサーバ側の役割について理解し、適切なサービスの選択や開発ができる。 (ウ) シングルボードコンピュータを用いて物理現象の測定を行うための機器の開発ができる。					
<b>ルーブリック</b>					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	IoTとは何かを理解し、ハードウェアとソフトウェアが連携するシステムを開発するために必要な要素技術を俯瞰できる。		IoTとは何かを理解し、ハードウェアとソフトウェアが連携するシステムを開発するために必要な要素技術をいくつか理解し、説明できる。		IoTとは何かを理解し、説明することができない。
評価項目(イ)	IoT機器におけるサーバ側の役割について理解し、説明できる。また、適切なサービスの選択や開発ができる。		IoT機器におけるサーバ側の役割について理解し、説明できる。		IoT機器におけるサーバ側の役割について理解し、説明できない。
評価項目(ウ)	シングルボードコンピュータを用いて物理現象の測定を行うための機器の設計および開発ができる。		シングルボードコンピュータを用いて物理現象の測定を行うための機器の設計ができる。		シングルボードコンピュータを用いて物理現象の測定を行うための機器の開発ができない。
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
<b>教育方法等</b>					
概要	近年の情報技術産業においては、モノのインターネットと呼ばれるIoT (Internet of Things) を代表に、ソフトウェアとハードウェアが密接に連携するシステムを構築することが広く行われている。本講義では、汎用的なIoT機器開発キットを用いてセンシングを行う方法を習得する。また、IoT機器で収集したデータをサーバなどのクラウド環境に送信する方法を習得する。また、グループ開発演習を通して具体的なIoT機器の設計と試作を行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	前半はPower Pointを用いた座学とArduino開発環境を用いた演習を行う。 後半はグループ単位に分かれ、グループ毎に実践的にIoTシステムの開発を行う。				
注意点	各自のノートPCを持参すること。「情報科学」教育プログラムの必修科目である				
<b>選択必修の種別・旧カリ科目名</b>					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスによる授業内容の説明および演習環境の構築 (復習: 次回の講義までに演習環境を構築しておく)	演習環境の構築ができる	
		2週	IoT (Internet of Things) とは (復習: IoTについてインターネットで最新の動向を調査する)	近年注目されているIoTについて理解でき、従来の情報機器との違いについて理解できる。	
		3週	Arduinoによるセンシング (予習: Arduinoとは何かを調べておく)	Arduinoを用いて物理現象をセンシングするための機器の利用方法を習得する。	
		4週	RTOSの基礎 (課題: RTOSでのArduino開発環境を整える)	組み込みソフトウェア開発において使用されるRTOSについて理解する。	
		5週	RTOSにおけるマルチタスクプログラミング (課題: マルチタスクプログラミングの課題を行う)	RTOSを用いてマルチタスクプログラミングができる。	
		6週	IoT機器とクラウドサービス (復習: データベースの利用方法について調査する)	センシングにより収集したデータをクラウドサービスなどのデータベースに格納するための方法を習得する。	
		7週	センシングデータの活用 (復習: Arduinoで利用できるセンサについて調査する)	センシングにより収集したデータの可視化や、データを効率良く扱うためのデータ構造について理解できる。	
		8週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
	2ndQ	9週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
		10週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
		11週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
		12週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
		13週	システム設計・開発演習 (課題: 開発チームごとに開発を進める)	与えられた機器や自ら選定した機器を使用して、IoT機器の設計と試作ができる。	
		14週	プレゼンテーション資料の作成 (課題: プレゼンテーション資料の作成を行う)	システム設計・開発演習において開発した成果物を発表するためのプレゼンテーション資料を作成できる。	



		15週	成果発表と振り返り (復習：講義で作成したソフトウェアやハードウェアの整理を行う)	成果発表により，成果物の利点や独創性，有用性を他者に伝えることができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	知識情報工学
科目基礎情報					
科目番号	95029		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「Rで学ぶデータサイエンス: データマイニングの基礎から深層学習まで」北 栄輔, オーム社 ISBN: 978-4274222542				
担当教員	早坂 太一				
目的・到達目標					
データ解析および機械学習における各手法を理解し、プログラムとして実現できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
データ解析支援環境	データ解析支援環境を利用してビッグデータを解析することができる。	データ解析支援環境を利用して演習課題を解くことができる。	データ解析支援環境を利用して演習課題を解くことができない。		
多変量解析	基本的な多変量解析アルゴリズムについて理論を説明できる。	基本的な多変量解析アルゴリズムの概要について説明できる。	基本的な多変量解析アルゴリズムの概要について説明できない。		
機械学習	基本的な機械学習アルゴリズムについて理論を説明できる。	基本的な機械学習アルゴリズムの概要について説明できる。	基本的な機械学習アルゴリズムの概要について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	ヒトが行っている知識処理を工学的に実現することは、情報理工学の目的の一つであり、コンピュータシステムの構築において、構成要素およびインターフェースを実現する上で重要な役割を果たしていると言えるが、極めて困難な問題でもある。本講義では、知識処理を実現するための各種アルゴリズムについて学び、会話型データ解析支援環境 R を用いて、実際にプログラムとして実現する演習を行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	座学および個人所有のノートPCを用いた演習を行う。				
注意点	JABEE「情報科学専攻」教育プログラムの必修科目である。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス説明 データマイニングと機械学習 (予習: 教科書§1および§6を読む)		データマイニングの概念について説明できる。
		2週	Rの基礎 (予習: 教科書付録1および付録2を読む)		各自のパソコンにRをインストールし、その基本操作ができる。
		3週	基本統計量によるデータの要約および可視化		最も基本的な統計解析を行うことができる。
		4週	回帰分析 (予習: 教科書§2を読む 復習: 教科書§2.4問題を解く)		回帰分析の概念について説明できる。
		5週	主成分分析・多次元尺度法 (予習: 教科書§3を読む 復習: 教科書§3.3問題を解く)		主成分分析の概念について説明できる。
		6週	判別分析 (予習: 教科書§4を読む 復習: 教科書§4.5問題を解く)		線形判別および非線形判別の概念について説明できる。
		7週	クラスタリング (予習: 教科書§5を読む 復習: 教科書§5.5問題を解く)		階層的および非階層的クラスタリングの概念について説明できる。
		8週	ニューラルネットワーク (予習: 教科書§7を読む 復習: 教科書§7.4問題を解く)		ニューラルネットワークの概念について説明できる。
	4thQ	9週	サポートベクターマシン (予習: 教科書§8を読む 復習: 教科書§8.3問題を解く)		サポートベクターマシンの概念について説明できる。
		10週	ベイズ推定 (予習: 教科書§9を読む 復習: 教科書§9.3問題を解く)		ベイズ推定の概念について説明できる。
		11週	自己組織化マップによる可視化 (予習: 教科書§10を読む 復習: 教科書§10.3問題を解く)		自己組織化マップの概念について説明できる。
		12週	決定木とランダムフォレスト (予習: 教科書§11を読む 復習: 教科書§11.4問題を解く)		樹木モデルの概念について説明できる。
		13週	深層学習 (予習: 教科書§12を読む 復習: 教科書§12.3問題を解く)		深層学習の概念について説明できる。
		14週	相関ルール解析 (アプリアリ・アルゴリズム)		アプリアリ・アルゴリズムの概念について説明できる。
		15週	総まとめ		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		40	60	100	

專門的能力	40	60	100
-------	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	離散数学
科目基礎情報					
科目番号	95030	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	やさしく学べる離散数学 (石村園子 著, 共立出版社 発行) ISBN978-4-320-01846-4				
担当教員	米澤 佳己				
目的・到達目標					
(ア)集合及び論理の基本を理解し, 関係及び写像の数学的定式化を理解する。 (イ)順序, 同値関係, 代数系の基本概念を理解し, 群・環・体などの抽象代数系を理解する。 (ウ)グラフの諸概念及び諸性質を数学的に理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	集合, 論理の基本を理解し, 関係, 写像の数学的定式化を理解し, 簡単な証明ができる。	集合, 論理の基本を理解し, 関係, 写像の数学的定式化を理解する。	集合, 論理の基本を理解し, 関係, 写像の数学的定式化を理解できない。		
評価項目(イ)	代数系の基本概念を理解し, 群・環・体などの抽象代数系を理解する。	順序, 同値関係, 代数系の基本概念を理解し, 群・環・体などの抽象代数系を理解できる。	順序, 同値関係, 代数系の基本概念, 群・環・体などの抽象代数系を理解できない。		
評価項目(ウ)	グラフの諸概念及び諸性質を理解し, 簡単な応用ができる。	グラフの諸概念及び諸性質を理解できる。	グラフの諸概念, 諸性質を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して, 問題の本質を数理的に捉え, コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	離散数学ではアルゴリズム論や情報科学の数学的理論に現われる諸概念やそれらの性質について学ぶ。まず関係や写像などの数学の基本概念を述べる。そして, 順序関係や同値関係, 抽象的な代数系の幾つかについて概念や性質を学ぶ。更に, グラフ理論の諸概念及び諸性質を数学的に議論する。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義による解説と演習により授業を行う。				
注意点	「情報科学」教育プログラムの必修科目である。(自学自習内容) 授業内容に関連する課題を毎回出題するので, 必ず提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	集合 (集合, 包含関係, 冪集合, 集合の演算, 集合の要素の個数, 全体集合)	集合および集合の諸概念を理解する。	
		2週	写像 (写像, 全射, 単射, 逆写像, 合成写像) (課題: 写像の簡単な例)	写像および写像の諸概念を理解する。	
		3週	論理 (述語, 論理式, 述語の合成)	論理を理解する。	
		4週	証明(背理法, 数学的帰納法, 鳩ノ巣原理) (課題: 様々な証明)	簡単な証明をできる。	
		5週	2項関係(直積集合, n 項関係, 関係とグラフ) (課題: 2項関係に関する基本的性質)	2項関係を理解する。	
		6週	順序関係(半順序, 全順序, 辞書式順序, ハッセル図, 最大元, 最小元, 極大元, 極小元, 上限, 下限, フール代数) (課題: 順序の例)	順序関係および, 順序の諸概念を理解する。	
		7週	同値関係(同値類, 分割) (課題: 同値関係の例)	同値関係を理解する。	
		8週	代数系(2項演算, 結合律, 分配律, 交換律, 単位元, 逆元) (課題: 代数系の例)	代数系および代数系の諸概念を理解する。	
	4thQ	9週	群と半群 (部分群, 対称群, 巡回群, 位数, 準同形写像) (課題: 群の例)	群, 半群の定義を理解する。	
		10週	環(可換環, イデアル, 多項式環) (課題: 環の例と簡単な計算)	環の定義を理解する。	
		11週	体 (可換体, 斜体, 四元数体, 有限体, 標数, 方程式の解法) (課題: 体の例と簡単な性質)	体の定義を理解する。	
		12週	グラフの諸概念 (グラフ, 経路, 隣接行列, 接続行列) (課題: グラフの例)	グラフの定義, 諸概念を理解する。	
		13週	いろいろなグラフ (完全グラフ, 2部グラフ, 木) (課題: いろいろなグラフとその性質)	色々なグラフの定義を理解する。	
		14週	平面グラフ (平面グラフ, オイラーの定理, オイラーグラフ, ハミルトングラフ) (課題: 平面グラフの性質)	平面グラフを理解し, 平面グラフの簡単な性質を理解する。	
		15週	演習	離散数学の全範囲を総括的に理解し, 簡単な問題が解けるようになる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
専門的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特別研究 I
科目基礎情報				
科目番号	95302	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	研究	単位の種別と単位数	学修単位: 6	
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専1	
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6	
教科書/教材	特に指定しない			
担当教員	都築 啓太, 江崎 信行, 安藤 浩哉, 稲垣 宏, 木村 勉, 仲野 巧, 早坂 太一, 平野 学, 藤原 賢二, 藤原 孝洋, 村田 匡輝			

<b>目的・到達目標</b> (ア) 研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的についてよく理解する。 (イ) 研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。 (ウ) 実験や調査などを通じて、信頼性の高いデータ収集、適切な工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。 (エ) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、完成度の高いコンピュータシステム開発を行うことができる。 (オ) 研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で他者にわかりやすく表現することができる(論文にまとめることができる)。 (カ) 研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭でわかりやすく限られた時間で説明することができる。
---

<b>ルーブリック</b>			
	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的についてそれぞれよく理解できる。	研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的について一部理解できる。	研究テーマ周辺についての基礎知識を持っておらず、研究の背景、動機、目的について理解できない。
評価項目(イ)	研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。	研究上の問題点や修正点について指摘があれば、自ら解決することができる。	研究上の問題点や修正点を解決することができない。
評価項目(ウ)	実験や調査などを通じて、信頼性の高いデータ収集、適切な工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。	実験や調査などを通じて、データ収集、工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。	実験や調査などを通じて、データ収集、工学的手法を用いた解析および考察を行うことができない。
評価項目(エ)	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で他者にわかりやすく表現することができる(論文にまとめることができる)。	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で表現することができる(論文にまとめることができる)。	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で表現することができない(論文にまとめることができない)。
評価項目(オ)	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭でわかりやすく限られた時間で説明することができる。	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭で説明することができる。	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭で説明することができない。

<b>学科の到達目標項目との関係</b> 学習・教育到達度目標 B1 与えられた問題を分析・モデル化し、解決方法を立案し、その有効性をコンピュータや測定装置を使って確かめることができる。 学習・教育到達度目標 B2 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合により、問題を的確に把握し、問題解決手法を自ら立案・推進できる。 学習・教育到達度目標 B3 社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有する。 学習・教育到達度目標 C4 日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力
---

<b>教育方法等</b>	
概要	本科5年間を通じて学んだことを応用して、コンピュータのハードウェアの作成、コンピュータのソフトウェアの作成、エレクトロニクス関連の装置・部品の製作、数理基礎分野の研究などを行い、技術者・研究者としての基礎を学ぶ。とくに、学生個々の選択する分野での研究テーマについて、深く専門の内容を掘り下げ、理解を深め、創造的に研究を進める過程を学ぶ。さらに与えられた制約の下で計画的に研究を進める能力を身につける。
授業の進め方と授業内容・方法	学生が選択した研究テーマに対応する担当教員が研究指導教員となり授業を進める。
注意点	授業内容欄の単位時間配分はあくまで目安であり、担当教員によって差異がある。「情報科学」教育プログラムの必修科目である。

**選択必修の種別・旧カリ科目名**

<b>授業計画</b>				
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび研究遂行上の留意点の説明	特別研究を進めるにあたり留意する事項、研究全体の流れについて理解できる。
		2週	研究分野の基礎学習：研究テーマ決定に向けて当該研究の背景、基礎知識、目的などの学習	研究分野の基礎知識や研究の背景、目的について理解できる。
		3週	研究分野の基礎学習：研究テーマ決定に向けて当該研究の背景、基礎知識、目的などの学習	研究分野の基礎知識や研究の背景、目的について理解できる。
		4週	研究分野の基礎学習：研究テーマ決定に向けて当該研究の背景、基礎知識、目的などの学習	研究分野の基礎知識や研究の背景、目的について理解できる。
		5週	研究分野の基礎学習：研究テーマ決定に向けて当該研究の背景、基礎知識、目的などの学習	研究分野の基礎知識や研究の背景、目的について理解できる。
		6週	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッション	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッションができる

後期	2ndQ	7週	文献検索：専門書、各種研究論文、インターネット検索などの利用	専門書、各種研究論文、インターネット検索を利用して文献検索ができる
		8週	文献検索：専門書、各種研究論文、インターネット検索などの利用	専門書、各種研究論文、インターネット検索を利用して文献検索ができる
		9週	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッション	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッションができる
		10週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	実験、分析、解析内容を考慮した研究計画の立案ができる
		11週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	実験、分析、解析内容を考慮した研究計画の立案ができる
		12週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	実験、分析、解析内容を考慮した研究計画の立案ができる
		13週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	実験、分析、解析内容を考慮した研究計画の立案ができる
		14週	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの準備	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの準備ができる
		15週	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの実施	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションができる
	16週			
	3rdQ	1週	システム開発：研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価	研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価ができる
		2週	システム開発：研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価	研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価ができる
		3週	システム開発：研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価	研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価ができる
		4週	システム開発：研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価	研究目的もしくは社会のニーズに照らし合わせたハードウェアおよびソフトウェアのデザインおよび評価ができる
		5週	データ収集：実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集ができる
		6週	データ収集：実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集ができる
7週		データ収集：実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集ができる	
8週		データ収集：実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	実験、計測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集ができる	
4thQ	9週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析	実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析ができる	
	10週	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッション	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッションができる	
	11週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析	実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析ができる	
	12週	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッション	研究指導教員および関連分野の専門家との研究課題に関するディスカッションができる	
	13週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析	実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法を用いての解析ができる	
	14週	最終発表会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの準備	最終発表会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの準備ができる	
	15週	最終発表会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションの実施	最終発表会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭でのプレゼンテーションができる	
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間発表	最終発表	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	総合英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	90012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	吉野成美 他 (著) Outstanding Monozukuri Companies 松柏社 (ISBN : 978-4-88198-744-5 C3082) 、プリント教材				
担当教員	神谷 昌明				
目的・到達目標					
<p>(ア) 企業戦略に関する英文読解に必要な語彙・文法・語法を習得する。  (イ) 企業戦略に関する英文で使用される基礎語彙を聞き取る(書き取る)ことができる。  (ウ) 例文を利用しながら企業を簡潔に説明することができる。  (エ) 企業戦略に関する英文を読んで、概要や要点を把握し、企業・科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について考えることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目	企業戦略に関する英文読解に必要な語彙・文法・語法を習得する。	企業戦略に関する英文の読解に必要な語彙・文法・語法が理解できる。	企業戦略に関する英文の読解に必要な語彙・文法・語法が理解できない。		
評価項目	企業戦略に関する英文で使用される基礎語彙を聞き取る(書き取る)ことができる。例文を利用しながら企業を簡潔に説明することができる。	企業戦略に関する英文で使用される基礎語彙を何回も聞けば聞き取る(書き取る)ことができる。例文を利用しながら教員の手助けがあれば企業を簡潔に説明することができる。	企業戦略に関する英文で使用される基礎語彙を聞き取る(書き取る)ことができない。例文を利用しながら企業を簡潔に説明することができない。		
評価項目	企業戦略に関する英文を読んで、概要や要点を把握し、企業・科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について考えることができる。	企業戦略に関する英文を読んで、概要や要点を把握し、企業・科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について理解できる。	企業戦略に関する英文を読んで、概要や要点を把握し、企業・科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 C3 英語によるコミュニケーション基礎能力をもっている。  JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養  JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力  本校教育目標 ④ コミュニケーション能力</p>					
教育方法等					
概要	本テキスト(企業の沿革・経営・科学技術に関する英語総合教材)の各項目の演習を行うことによって英語の基本的知識(語彙、文法、構文等)を確認し習得する。英語の4技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を有機的に組み合わせた授業演習を通して、「聞いたもの」「読んだもの」(受信情報)を音声や文字によって「伝える」(発信)スキルを身に付ける。注目すべき企業の沿革・戦略に関する英文及び関連するweb記事を読むことによって、ビジネス英語・技術英語特有の基本的な専門用語、高頻度で現れる句動詞などを習得する。例文を用いて、興味のある企業を英語で簡潔に説明できることを目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	英和辞典(紙または電子辞書)を持参すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、「マツダ」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「マツダ」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	
		2週	「ハウス食品」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「ハウス食品」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	
		3週	「TOTO」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「TOTO」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	
		4週	「シマノ」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「シマノ」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	
		5週	「マツダデザイン」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「マツダデザイン」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	
		6週	「UCC上島珈琲」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成(自学自習内容:復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する)	「UCC上島珈琲」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。	



4thQ	7週	「ダイフク」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「ダイフク」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	8週	「サクラクレパス」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「サクラクレパス」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	9週	「ヤンマー」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「ヤンマー」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	10週	「山岡孫吉」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「山岡孫吉」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	11週	「オタフクソース」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「オタフクソース」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	12週	「トンボ」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「トンボ」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	13週	「日東電工」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「日東電工」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	14週	「モロゾフ」の企業戦略に関する英文読解、基本語彙・語法の学習、書き取り演習、英作文作成（自学自習内容：復習及び次週の章の英文を直読直解し内容を理解する）	「モロゾフ」の企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	15週	総復習（自学自習内容：14週までの総復習を行う）	企業戦略に関する英文・語法などが理解できる。例文を参照しながら興味のある企業を英語で簡潔に説明できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	実技課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	上級英語表現
科目基礎情報					
科目番号	90014		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	英文解釈教室 新装版 伊藤和夫著 (研究社)				
担当教員	遠藤 颯馬				
目的・到達目標					
(ア)文法的知識に基づき、難解な英文を読解することができる。 (イ)日本語と英語の言語的な違いを説明することができる。 (ウ)慣用句 (イディオム)、句動詞、慣用連語を習得する。 (エ)文法事項を正しく理解することができる。 (オ)読んだ英文に対して、適切な日本語で自分の意見を述べるができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目	文法的な知識に基づいて、独力で英文を読解できる。	教員の助言を聞きながら、文法的な知識に基づき、英文を読解できる。	教員の助言を聞いても、英文を理解することができない。		
評価項目	授業で扱った英文に対して、適切な日本語で自分の意見を述べるができる。	授業で扱った英文を理解することが出来る。	学習した英文を理解することができない。		
評価項目	高度な文法的な知識を習得し、適切な文法用語で説明することができる。	高度な文法的な知識を習得することができる。	文法的な説明を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	本授業の目的は、難解な英文を文法的な知識に依拠しながら読むという姿勢を確立してもらうことにある。英字新聞や学術論文で使われる英語は、語彙も構文も極めて多様であり、難解である。そのような英文を理解するには、感覚的な読み方は通用せず、文法的な知識を基に、理詰めで英文を解釈して作業が必要とされる。本授業では、英文解釈の技術を体系的に扱うことで、確かな英語力を養ってもらう。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業では、教科書の英文を読むことで、英文解釈の技術を習得してもらう。その際、教員が解説をいきなり述べてしまうのではなく、まず最初に学生の意見を求める。それを基に、討論をすることで、授業を展開していく。主体的な授業参加を期待している。				
注意点	教科書及び英和辞典 (電子辞書も可) を持参すること。決められた期日までの課題 (レポート) 提出を求める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス、Chapter1 主語と動詞 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	2週	Chapter 2 目的補語 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	3週	Chapter 3 that節 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	4週	Chapter 4 what節 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	5週	Chapter 5 倒置形 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	6週	Chapter 6 同格構文 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	7週	Chapter 7 It~that~ (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	8週	Chapter 8 意味上の主語 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	9週	Chapter 9 関係詞 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		
	10週	Chapter 10 修飾語の位置 (1) (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べるができる。		

	11週	Chapter 1 1 修飾語の位置 (2) (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べることができる。
	12週	Chapter 1 2 比較の一般問題 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べることができる。
	13週	Chapter 1 3 比較の特殊問題 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べることができる。
	14週	Chapter 1 4 共通関係 (自学自習内容: 復習及び次週の予習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べることができる。
	15週	Chapter 1 5 挿入の諸形式 (自学自習内容: 1 4 週までの学習内容の総復習)	文法的な知識に依拠しながら、英文を読解することができる。自分の意見を適切な日本語で述べることができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	応用解析学 II
科目基礎情報					
科目番号	91015		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	/参考図書:「明解 複素解析」長崎憲一・山根英司・横山利章 (培風館) ISBN:4-563-01122-3				
担当教員	金坂 尚礼				
目的・到達目標					
(ア)複素数に関する基本的な概念(絶対値、偏角等)やその基本性質を理解している。 (イ)複素関数としての初等関数の定義や性質を理解している。 (ウ)複素積分の定義を理解し、簡単な複素積分の計算ができる。 (エ)複素関数が正則関数か否かを判定できる。 (オ)コーシーの定理、コーシーの積分公式や留数定理を利用しつつ複素積分または実積分の計算ができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		複素数と複素数平面についての発展的な問題が解ける。	複素数と複素数平面についての基礎的な問題が解ける。	複素数と複素数平面についての基礎的な問題が解けない。	
評価項目2		複素関数についての発展的な問題が解ける。	複素関数についての基礎的な問題が解ける。	複素関数についての基礎的な問題が解けない。	
評価項目3		複素積分についての発展的な問題が解ける。	複素積分の基礎的な計算ができる。	複素積分の基礎的な計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	この授業では、「複素解析学」或いは「複素関数論」と呼ばれる複素1変数複素数値関数に関する理論の基礎の習得を目指す。多項式関数・分数関数、三角関数、指数・対数関数などこれまでに会った多くの関数は複素関数に自然に拡張され、「正則関数」(あるいは「有理型関数」)と呼ばれる極めて良い性質を持つ関数となる。正則関数として三角関数と指数・対数関数が統一される様子や正則関数(「有理型関数」)の複素積分を理解することにより、この理論の面白さや美しさを感じることができるとであろう。授業では同時にこの理論の応用面にも触れる予定である。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業内容に関する課題を適宜提出すること				
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	複素数と複素平面(座標平面における複素数の表示と極形式、複素数と回転) (自学自習内容)プリント「確認問題No.1」による、複素数の性質および極形式の演習	複素数と複素平面(座標平面における複素数の表示と極形式、複素数と回転)について理解する。	
		2週	複素数と複素平面(複素平面上の曲線とそのパラメータ表示) (自学自習内容)プリント「確認問題No.2」による、複素数平面上の曲線、ド・モアブルの定理の応用の演習	複素数と複素平面(複素平面上の曲線とそのパラメータ表示)について理解する。	
		3週	複素関数(初等関数の複素関数への拡張) (自学自習内容)プリント「確認問題No.3」による、複素関数に関する問題演習	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)について理解する。	
		4週	複素関数(初等関数の複素関数への拡張) (自学自習内容)プリント「確認問題No.3」による、複素関数に関する問題演習	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)について理解する。	
		5週	複素積分(複素積分の定義と性質) (自学自習内容)プリント「確認問題No.4」による、実変数複素数値関数の微分・積分に関する問題演習	複素積分(複素積分の定義と性質)について理解する。	
		6週	複素積分(複素積分の定義と性質) (自学自習内容)プリント「確認問題No.5」による、定義に基づいた複素積分に関する問題演習	複素積分(複素積分の定義と性質)について理解する。	
		7週	複素積分(多項式関数と簡単な分数関数の複素積分) (自学自習内容)プリント「確認問題No.6」による、多項式や分数式の複素積分に関する問題演習	複素積分(多項式関数と簡単な分数関数の複素積分)について理解する。	
		8週	小テストおよび演習 (自学自習内容)プリント「確認問題No.7」による、分数式の複素積分に関する問題演習	問題演習や小テストによって理解を確認する。	
	4thQ	9週	複素積分(部分分数分解と分数関数の積分、特別な場合の留数定理) (自学自習内容)プリント「確認問題No.8」による、分数式の複素積分に関する問題演習	複素積分(部分分数分解と分数関数の積分、特別な場合の留数定理)について理解する。	

10週	複素積分(複素積分を用いた実積分の計算例) (自学自習内容) プリント「確認問題No.9」による、 留数定理の実積分への応用に関する問題演習	複素積分(複素積分を用いた実積分の計算例)について 理解する。
11週	正則関数(コーシー・リーマンの方程式、正則関数の定 義および性質) (自学自習内容) プリント「確認問題No.9」による、 正則性の判定に関する問題演習	正則関数(コーシー・リーマンの方程式、正則関数の定 義および性質)について理解する。
12週	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式 ) (自学自習内容) プリント「確認問題No.10」による 、コーシーの定理およびコーシーの積分公式に関する 問題演習	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式 )について理解する。
13週	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式 ) (自学自習内容) プリント「確認問題No.10」による 、コーシーの定理およびコーシーの積分公式に関する 問題演習	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式 )について理解する。
14週	小テストおよび演習 (自学自習内容) プリント「確認問題No.11」による 、極と留数に関する問題演習	問題演習や小テストによって理解を確認する。
15週	留数定理と応用例の紹介 (自学自習内容) プリント「確認問題No.11」による 、留数定理に関する問題演習	留数定理について理解する。
16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合		50	40	10	100
分野横断的能力		50	40	10	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	統計熱力学
科目基礎情報					
科目番号	91016		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「キッテル 熱物理学」 山下 次郎, 福地 充 共訳 (丸善)				
担当教員	大森 有希子				
目的・到達目標					
<p>(ア) 孤立系について、多重度関数を求めることができる。</p> <p>(イ) ボルツマンの原理を理解し、孤立系のエントロピーを求めることができる。</p> <p>(ウ) 熱浴と接した系において、特定の状態が実現する確率が、ボルツマン因子で与えられることを理解する。</p> <p>(エ) 熱浴と接した系について、分配関数、ヘルムホルツの自由エネルギーを求めることができる。</p> <p>(オ) 熱浴と接した系について、系のエネルギー、熱容量を求めることができる。</p> <p>(カ) 熱放射に関するプランク分布を理解し、簡単な問題を解くことができる。</p> <p>(キ) 固体の比熱に関するデバイの理論を理解し、簡単な問題を解くことができる。</p> <p>(ク) テーラー展開、カウス積分、階乗に関するスターリングの近似など、適切な数学手法を用いて、目的の計算ができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明でき、問題を解くことができる。	孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明できる。	孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明できない。	
評価項目(イ)		熱浴と接した系において、ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明でき、問題を解くことができる。	熱浴と接した系において、ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できる。	熱浴と接した系において、ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できない。	
評価項目(ウ)		熱放射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明でき、問題を解くことができる。	熱放射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。	熱放射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。</p> <p>JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力</p> <p>本校教育目標 ② 基礎学力</p>					
教育方法等					
概要	本講義では、統計熱力学を学ぶ。我々の身のまわりで観られる"巨視的"熱現象は、"微視的"な視点で考えると、膨大な数の粒子が様々な状態をとることで生じている。本講義では、微視的視点から、粒子の状態の平均像を考え、これを巨視的現象と繋げていく。特に、物性の熱力学的側面に焦点を当てて講義をする。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	前半で、熱力学的エントロピーと統計力学的エントロピーが一致することを学習するが、大学レベルの熱力学の授業を履修していない学生は自習してほしい。また、複雑な計算が多いので、予習・復習を欠かさぬよう心掛けてほしい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	多重度関数： 状態の数え方と多重度関数, 平均値 (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	状態の数を数えることができる。	
		2週	多重度関数： 状態の数え方と多重度関数, 平均値 (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	スターリングの近似を使い、多重度関数を近似的に求めることができる。	
		3週	多重度関数： 状態の数え方と多重度関数, 平均値 (自学自習内容: 授業内容に関する課題を提出すること)	平均値を求めることができる。	
		4週	エントロピーと温度： 熱平衡, ボルツマンの原理, エントロピー増加の法則, 熱力学の法則 (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	熱平衡を説明できる。	
		5週	エントロピーと温度： 熱平衡, ボルツマンの原理, エントロピー増加の法則, 熱力学の法則 (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	ボルツマンの原理を説明できる。	
		6週	エントロピーと温度： 熱平衡, ボルツマンの原理, エントロピー増加の法則, 熱力学の法則 (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	エントロピー増加の法則を説明できる。	
		7週	エントロピーと温度： 熱平衡, ボルツマンの原理, エントロピー増加の法則, 熱力学の法則 (自学自習内容: 授業内容に関する課題を提出すること)	熱力学の法則を説明できる。	
		8週	ヘルムホルツの自由エネルギー： ボルツマン因子, 分配関数, 可逆過程, 自由エネルギー (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	ボルツマン因子を説明できる。	
	4thQ	9週	ヘルムホルツの自由エネルギー： ボルツマン因子, 分配関数, 可逆過程, 自由エネルギー (自学自習内容: 授業内容の予習・復習を行うこと)	分配関数を説明できる。	

10週	ヘルムホルツの自由エネルギー：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー（自学自習内容：授業内容の予習・復習を行うこと）	可逆過程を説明できる。
11週	ヘルムホルツの自由エネルギー：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー（自学自習内容：授業内容に関する課題を提出すること）	ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できる。
12週	熱輻射：プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）（自学自習内容：授業内容の予習・復習を行うこと）	黒体輻射・プランク分布関数を説明できる。
13週	熱輻射：プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）（自学自習内容：授業内容の予習・復習を行うこと）	黒体輻射・プランク分布関数を説明できる。
14週	熱輻射：プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）（自学自習内容：授業内容の予習・復習を行うこと）	固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。
15週	熱輻射：プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）（自学自習内容：授業内容に関する課題を提出すること）	固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。
16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	生体情報論
科目基礎情報					
科目番号	91019		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「人体の構造と機能」 エレイン N. マリーブ 著 (医学書院) / 「新・生理学実習書」 日本生理学会 編 (南江堂) / プリント				
担当教員	加藤 貴英				
目的・到達目標					
(ア) 身体の構造と形態、機能が理解できる。 (イ) ヒトの骨格と関節の構造が理解できる。 (ウ) 神経系の構成と神経伝達のメカニズムが理解できる。 (エ) 筋の形態と筋収縮のメカニズムが理解できる。 (オ) 各内分泌腺から放出されるホルモンの主な作用が理解できる。 (カ) 心臓と血管の構造と血液循環のメカニズムが理解できる。 (キ) 呼吸の機序と体内ガス交換のメカニズムが理解できる。 (ク) 体脂肪率を算出することができる。 (ケ) エネルギー消費量を算出することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	身体の構造と形態、機能を説明することができる。	身体の構造と形態、機能が理解できる。	身体の構造と形態、機能が理解できない。		
評価項目 2	数人でグループを作り、そのメンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集し、生理学的メカニズムが理解できる。	メンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集できる。	メンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集できない。		
評価項目 3	収集したデータを基に生理学的・解剖学的観点から考察を加えレポート作成ができる。	収集したデータを基にレポート作成ができる。	収集したデータを基にレポート作成ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	生体のもつ様々な機能およびその調節機構を理解するために、本講義では、人体の構造と機能の根本となる解剖学と生理学を簡潔に学習する。また、種々の基礎的生理学実験法を学習する。これらの学習から人体の構造と機能を客観的に評価できる能力を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	配布する教材プリントとスライド (動画含む) で解説した後、教材プリント内にある練習問題 (Q&A) を解きながら理解度を深めていく。種々の測定についてはグループワークで行う。				
注意点	(自学自習内容) 授業で配布する教材プリントで復習すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーションー解剖学と生理学 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	身体の構造と形態、機能について理解できる。	
		2週	骨格系ー骨と関節 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	ヒトの骨格と関節の構造について理解できる。	
		3週	神経系ー神経のタイプと神経伝達のメカニズム (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	神経系の構成と神経伝達のメカニズムについて理解できる。	
		4週	筋系ー筋のタイプと筋収縮のメカニズム (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	筋の形態と筋収縮のメカニズムについて理解できる。	
		5週	筋力測定 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	筋力測定が実施できる。	
		6週	エネルギー供給機構 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	エネルギー供給機構が理解できる。	
		7週	運動時の代謝産物 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	運動時の血中乳酸濃度とエネルギー供給について理解できる。	
		8週	内分泌系 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	各内分泌腺から放出されるホルモンの主な作用について理解できる。	
	2ndQ	9週	心臓血管系 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	心臓と血管の構造と血液循環のメカニズムについて理解できる。	



	10週	血圧と動脈音 (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	水銀血圧計と聴診器を使って血圧の測定が実施できる。
	11週	呼吸系 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリント内の練習問題を見直し、復習すること。	呼吸の機序と体内ガス交換のメカニズムが理解できる。
	12週	酸素飽和度と呼吸の化学調節 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	低酸素、二酸化炭素が呼吸機能に与える影響について理解できる。
	13週	形態計測と身体組成 (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	体脂肪率の算出方法が理解できる。
	14週	酸素摂取量とエネルギー消費 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	エネルギー消費量の算出方法が理解できる。
	15週	まとめ (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	レポート作成方法が理解できる。
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	健康科学特論
科目基礎情報					
科目番号	91020		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「健康運動実践指導者用テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業財団) / プリント				
担当教員	加藤 貴英				
目的・到達目標					
(ア)健康の概念と、健康の維持・増進について説明できる。 (イ)体力の概念と種々の体力測定法を説明できる。 (ウ)5大栄養素とエネルギーの摂取と消費の関係について説明できる。 (エ)自分に合ったフィットネスデザインができる。 (オ)フィットネスの実践ができる。 (カ)フィットネスの効果を客観的に判断できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解し、実施することができる。	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解することができる。	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解できない。		
評価項目 2	運動トレーニングの効果を統計処理したデータ(集団)から評価できる。	運動トレーニングの効果をデータ(個人)から評価できる。	運動トレーニングの効果をデータ(個人)から評価できない。		
評価項目 3	運動トレーニングデータに先行文献データを加えて研究レポートが作成できる。	運動トレーニングデータを基にレポートが作成できる。	運動トレーニングデータを基にレポートが作成できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	より良い人生を送るためにも常日頃から健康管理に努めなければならない。本講義では、健康を維持・増進するための基礎となる「運動」、「休養」、「栄養」、「体力」について学習する。また、フィットネスを実践していくための基礎的な方法論についても学習する。これらの学習から健康の維持・増進を実践できる能力を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	配布する教材プリントとスライドで理論を解説したあと、トレーニングマシンを使ってマシンの使用方法を説明し、実体験する。フィットネス演習ではデザインされたトレーニングメニューを実践する。トレーニング期間の前後で種々の体力測定や形態計測を行い、トレーニング効果を検証する。				
注意点	実際に運動トレーニングを行い、その効果を検証する。文部科学省の「体力・運動能力調査」や厚生労働省の「健康づくりのための身体活動基準・指針」は授業をおこなう上で非常に参考になるので、余裕があれば目を通しておく。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	健康学概論と体力の概念(自学自習内容)授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	健康の概念と、健康の維持・増進について理解することができる。体力の概念を理解することができる。体力の概念を理解することができる。	
		2週	フィットネス概論とフィットネスデザイン(自学自習内容)授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	運動トレーニングの方法論を理解することができる。運動トレーニングの頻度、強度、時間の設定ができる。	
		3週	体力の測定(自学自習内容)体力測定データを基に自身の目標設定を行うこと。	種々の体力測定を理解することができる。トレーニング前の体力レベルを確認する。	
		4週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	
		5週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	
		6週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	
		7週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	
		8週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	
	4thQ	9週	フィットネス演習(自学自習内容)トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。	

	10週	フィットネス演習 (自学自習内容) トレーニング後のからだのケアを行うこと。	運動トレーニングが実施できる。
	11週	体力の測定 (自学自習内容) 体力測定データを基にレポート課題の作成を始めること。	トレーニング後の体力レベルを確認する。
	12週	データ整理 (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	トレーニング前後の体力レベルを比較し、トレーニング効果を評価できる。
	13週	統計学 (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	標準偏差、直線回帰、T検定を理解することができる。
	14週	栄養と休養 (自学自習内容) 授業後、配布した教材プリントを見直し、復習すること。	栄養と休養について理解することができる。
	15週	まとめ (自学自習内容) レポート課題を作成すること。	統計解析とレポート作成方法を理解することができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	初等代数
科目基礎情報					
科目番号	91021	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない				
担当教員	米澤 佳己				
目的・到達目標					
(ア) 数学的な基本的記号の意味を理解できる。簡単な証明ができる。 (イ) 最大公約数、最小公倍数、一次合同式に関する基本的な計算ができる。 (ウ) オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解し、簡単な例の計算が行える。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	数学的な基本的記号の意味を理解でき、簡単な証明をすることができる。	数学的な基本的記号の意味を理解できる。	数学的な基本的記号の意味を理解できない。		
評価項目(イ)	最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解でき、簡単な計算をすることができる。	最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解できる。	最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解できない。		
評価項目(ウ)	オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解し、簡単な例の計算が行える。	オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解できる。	オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	この講義では自然数及び整数の性質について考察する。整数には最大公約数、最小公倍数などの実数には無い概念を導入することにより様々な応用が与えられる。中でも現在では計算機によるネットワークの利用における暗号の取り扱いにおいて整数の性質が重要な論理的基礎になっている。本講義においては、整数の性質を基本から解説し、その応用として現在の暗号の理論の初歩を述べる。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	授業内容に関連する課題を毎回出題するので、必ず提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	数学の基本的記号の使い方と基本的性質	数学の基本的記号の使い方と基本的性質を理解する。	
		2週	数学的帰納法の復習 (課題: 数学的帰納法による簡単な証明)	簡単な数学的帰納法の証明をすることができる。	
		3週	背理法による証明法 (課題: 背理法による簡単な証明)	背理法を用いた簡単な証明をすることができる。	
		4週	整数に関する基本的定義と基本的性質	整数に関する基本的定義と基本的性質を理解する。	
		5週	ユークリッドの互除法とその応用 (課題: ユークリッド互除法による計算)	ユークリッドの互除法を理解し、とその応用を計算できる。	
		6週	最大公約数・最小公倍数に関する性質 (課題: 最大公約数、最小公倍数の計算)	最大公約数・最小公倍数に関する性質を理解する。	
		7週	素因数分解の可能性と一意性	素因数分解の可能性と一意性を理解する。	
		8週	一次合同式の定義と基本的性質 (課題: 一次合同式の簡単な計算)	一次合同式の定義と基本的性質を理解する。	
	2ndQ	9週	合同方程式、不定方程式 (課題: 簡単な合同方程式の解法)	簡単な合同方程式、不定方程式の性質を理解し、解くことができる。	
		10週	剰余に関する定理	剰余に関する定理を理解する。	
		11週	オイラー関数の定義 (課題: オイラー関数の簡単な計算)	オイラー関数の定義を理解し、基本的な性質を利用できる。	
		12週	オイラーの定理、フェルマーの定理 (課題: オイラーの定理の応用)	オイラーの定理、フェルマーの定理を理解する。	
		13週	公開鍵暗号の仕組み	公開鍵暗号の仕組みを理解する。	
		14週	公開鍵暗号の例としての RSA 暗号 (課題: RSA 暗号の簡単な計算)	公開鍵暗号の例としての RSA 暗号を理解する。	
		15週	電子署名の仕組みと RSA 暗号におけるその実現法	電子署名の仕組みと RSA 暗号におけるその実現法を理解する。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	信頼性工学
科目基礎情報					
科目番号	92012		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「信頼性データの解析」 真壁 肇 著 (岩波書店) / プリント等				
担当教員	中村 裕紀				
目的・到達目標					
(ア) 確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。 (イ) 修理系と非修理アイテムの違いを理解する。 (ウ) アイテムの信頼度や保全性について理解する。 (エ) 工業製品において冗長性、フェールセーフおよびフルブーフが考慮されていることがわかる。 (オ) 直・並列系の信頼度を求めることができる。 (カ) 故障発生にはパターンがあることを理解する。 (キ) 信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。 (ク) 寿命分布と故障率の関係について理解する。 (ケ) 指数分布とワイブル分布について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目(ア)	確率・統計に関する知識と信頼性や品質保証との関連性を十分に理解し考えることができる。	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができない。		
評価項目(イ)	複雑な直・並列系の信頼度を求めることができる。	単純な直・並列系の信頼度を求めることができる。	単純な直・並列系の信頼度を求めることができない。		
評価項目(ウ)	複雑な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できる。	単純な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できる。	単純な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	信頼性工学の初歩的な分野について、とくに信頼性データの取り扱い方や解析方法を統計学の手法を用いて学び、それに基づいて信頼性、耐久性および保安性の意味を理解する。同時に、信頼性モデルの構築の必要性和故障や修理に対する考え方を身につける。また、人間の生命表および死亡率は工業製品の寿命分布および故障率と多くの共通点を持ち、それらの理解は信頼性を考慮する上で欠かすことができない。代表的な寿命分布である指数分布とワイブル分布についても解説する。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	「確率・統計」に関する基本を理解できていることが望ましい。授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	信頼性と品質管理、品質保証：SOC、TOC、設計審査、信頼性試験（課題：講義内容に関する問題）	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。	
		2週	信頼性管理および信頼性工学の歴史：安全性、耐久性、保全性（課題：講義内容に関する問題）	修理系と非修理アイテムの違いを理解する。	
		3週	信頼性の意味：MTTF、信頼度、ピークライフ、MTBF（課題：講義内容に関する問題）	修理系と非修理アイテムの違いを理解する。	
		4週	保全性と設計信頼性：冗長性、フェールセーフ、フルブーフ（課題：講義内容に関する問題）	アイテムの信頼度や保全性について理解する。工業製品において冗長性、フェールセーフおよびフルブーフが考慮されていることがわかる。	
		5週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：講義内容に関する問題）	直・並列系の信頼度を求めることができる。	
		6週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：講義内容に関する問題）	直・並列系の信頼度を求めることができる。	
		7週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：直・並列系の信頼度の計算）	直・並列系の信頼度を求めることができる。	
		8週	信頼性データ：完全標本、打切標本、ランダム打切標本（課題：講義内容に関する問題）	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。	
	2ndQ	9週	信頼性データ：完全標本、ランダム打切標本（課題：講義内容に関する問題）	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。	
		10週	加速試験と信頼性データ：故障モード、加速係数（課題：講義内容に関する問題）	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。	
		11週	生命表と死亡率および寿命分布と故障率：経験表、死亡率曲線、平均故障間隔、平均故障寿命（課題：講義内容に関する問題）	寿命分布と故障率の関係について理解する。	

	12週	寿命分布の確率密度関数と故障率関数および信頼度関数：故障率、任務時間、信頼度、不信頼度（課題：講義内容に関する問題）	寿命分布と故障率の関係について理解する。
	13週	寿命分布の確率密度関数と故障率関数および信頼度関数：故障率、任務時間、信頼度、不信頼度（課題：講義内容に関する問題）	寿命分布と故障率の関係について理解する。
	14週	故障発生のパターンとBath-tub曲線：初期故障、偶発故障、摩耗故障（課題：講義内容に関する問題）	故障発生にはパターンがあることを理解する。
	15週	指数分布とワイブル分布：最弱リンク説、極値統計（課題：講義内容に関する問題）	指数分布とワイブル分布について理解する。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		60	40	100	
分野横断的能力		60	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	情報システム工学
科目基礎情報					
科目番号	92014		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「情報工学レクチャーシリーズ ソフトウェア工学」高橋直久・丸山勝久共著 (森北出版社), ISBN978-4627810617 / 「ユースケース駆動開発実践ガイド」ダグ・ローゼンバーグ他 (翔泳社), 「かんたんUML」オージス総研 (翔泳社), 「Java言語で学ぶデザインパターン」結城浩 (ソフトバンク)				
担当教員	小松 弘和				
目的・到達目標					
(ア)大規模ソフトウェア開発の課題について説明できる。 (イ)開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できる。 (ウ)要求分析の目的と手法について説明できる。 (エ)構造化分析、オブジェクト指向分析における手法を用いて、ソフトウェアのモデル図が描ける。 (オ)モジュール設計の目的を理解し、構造化手法やオブジェクト設計による効率的なソフトウェア設計仕様が描ける。 (カ)オブジェクト指向の特徴を理解し、クラス図やシーケンス図などの技法を使って、ソフトウェア設計仕様が描ける。 (キ)プロジェクト管理やテストおよび検証で用いられる手法を理解し、説明できる。					
ルーブリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(可)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	大規模ソフトウェア開発の課題について正確に説明できる。		大規模ソフトウェア開発の課題について説明できる。		大規模ソフトウェア開発の課題について説明できない。
評価項目(イ)	開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について正確に説明できる。		開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できる。		開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できない。
評価項目(ウ)	要求分析の目的と手法について正確に説明できる。		要求分析の目的と手法について説明できる。		要求分析の目的と手法について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 学習・教育到達度目標 C3 英語によるコミュニケーション基礎能力をもっている。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	情報システムは社会生活にとって欠かせないものであり、人間による活動の写像であるといえる。このため社会生活の変更に對する情報システムの仕様変更が適切でなければ、円滑な社会生活を妨げるばかりかシステムを提供する企業に不利益を及ぼしかねない。そこで、将来技術者として情報システムを構築する際に、仕様変更が容易で高い品質を維持でき、かつ効率的なシステムの構築手法を学ぶことが重要である。本講義では、開発初期段階でシステムの要求仕様が誤りなく把握し、変更に對して頑健な情報システムの分析・設計手法を学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業中の演習および課外の課題を通して、ソフトウェア開発ライフサイクルの各プロセスの特徴、構造化分析およびオブジェクト指向分析・設計手法の習得を目指す。				
注意点	C言語などのモジュール構造を有したプログラミング経験があることを前提とする。(自学自習内容) 授業内容に該当する項目について必ず復習し、学習内容の理解を深めること。また与えられた自習課題は確実に解いておくこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	大規模ソフトウェア開発の課題 (復習:ソフトウェア開発とソフトウェア工学)	大規模ソフトウェア開発の課題とソフトウェア工学による問題解決と、ソフトウェア開発ライフサイクルに応じたモジュール化の必要性を理解できる。	
		2週	ソフトウェアの開発工程 (復習:ソフトウェア開発ライフサイクルと開発プロセス)	大規模ソフトウェア開発の特徴について理解し、様々なソフトウェア開発プロセスを理解できる。	
		3週	プロジェクト管理および品質管理の指針 (復習:プロジェクト管理による開発工数の見積もり)	プロジェクト管理で用いられる開発工数の見積もり手法(標準タスク法およびファンクションポイント法)を理解できる。また、品質管理のための指針について理解できる。	
		4週	要求分析 (復習:要求分析の手法)	要求分析の手法について理解できる。	
		5週	構造化分析設計 1: DFDによるシステム動的分析 (復習:DFDによる構造化分析設計)	構造化分析設計によるDFDによるシステムの動的分析を理解できる。	
		6週	オブジェクト指向分析によるシステム構造のモジュール化 オブジェクト指向の基本概念 1: カプセル化とメッセージパッシング (復習:オブジェクト指向の基本概念)	オブジェクト指向の基本概念と、その特徴であるカプセル化とメッセージパッシングを理解できる。	
		7週	オブジェクト指向の基本概念 2: クラスとインスタンス、関連・継承・集約 (復習:オブジェクト指向の基本概念)	オブジェクト指向の基本概念であるクラスとインスタンス、および関連・継承・集約の違いを理解できる。	
		8週	オブジェクト指向開発方法論、および責任駆動型アプローチとユースケース (復習:ユースケース図とユースケース記述)	オブジェクト指向開発方法論における、オブジェクト指向の利点と責任駆動型アプローチに基づきユースケース図とユースケース記述によりシステムの基本機能を表現できる。	



4thQ	9週	責任駆動型アプローチによるクラスの同定および振る舞いの記述 (復習: アクティビティ図とシーケンス図)	オブジェクト指向開発方法論の責任駆動型アプローチにおいて、クラスを同定しアクティビティ図やシーケンス図による振る舞いを記述できる。
	10週	アーキテクチャ設計 (復習: アーキテクチャ設計)	性能や変更容易性など非機能面からの要求分析を理解できる。
	11週	モジュール設計1 (復習: モジュール構造の評価尺度)	モジュール構造の評価のために用いられる強度と結合度を理解できる。
	12週	モジュール設計2: 構造化システム設計とオブジェクト指向システム設計開発プロセスおよび、構造化分析のモジュール化手法 (復習: STS法およびTR法によるモジュール設計)	設計開発プロセスの違いについて理解し、構造化分析設計におけるシステムのモジュール化を理解できる。
	13週	プログラミング: 構造化プログラミングとデータ中心アプローチ (復習: 構造化プログラミングとデータ構造)	構造化プログラミングの技法およびデータ中心アプローチによるモジュール構造設計技法について理解できる。
	14週	テストと検証 (復習: テスト工程とテスト技法)	ソフトウェアテストの工程や、用いられる技法について理解できる。
	15週	保守と再利用 (復習: 保守と再利用の技法)	ソフトウェア保守および再利用の意義と手法について理解できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		60	40	100	
分野横断的能力		60	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	パターン情報処理
科目基礎情報					
科目番号	92015		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	荒木雅弘「フリーソフトでつくる音声認識システム」 森北出版、ISBN: 978-4-627-84712-5				
担当教員	村田 匡輝				
目的・到達目標					
(ア)パターン・クラスについて理解する。 (イ)パターン情報処理の数学的な基礎を理解する。 (ウ)特徴抽出の概要について理解する。 (エ)統計的パターン認識について理解する。 (オ)音響モデル、言語モデルの構築方法を説明することができる。 (カ)パターン情報処理の具体例として音声認識システムについて概要を理解する。					
ルーブリック					
		最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目 1		パターン・クラスについて理解し、実問題に応用できる。	パターン・クラスについて理解する。	パターン・クラスについて理解できない。	
評価項目 2		パターン情報処理の数学的な基礎を理解し、詳細を説明できる。	パターン情報処理の数学的な基礎を理解する。	パターン情報処理の数学的な基礎を理解できない。	
評価項目 3		特徴抽出の概要について理解し、実問題において効果的な特徴を説明できる。	特徴抽出の概要について理解する。	特徴抽出の概要について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	人間は、実世界の画像・音・文字など様々な情報（パターン）を知覚し、それらのパターンをいくつかの概念（クラス）に対応付けることによって情報を処理している。コンピュータに人間と同等の処理を行わせるためには、様々な基礎技術を組み合わせる必要がある。本講義では、まず前半部分で、パターン情報処理を行うための様々な基礎理論・技術を学ぶ。そして、後半部分では、パターン情報処理の具体例として音声認識技術を取り上げ、実際にシステムを作り上げる過程を通して、パターン情報処理を実践する力を身に付ける。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義前半では、教科書の内容に基づき、パターン情報処理の理論的・数学的な部分の解説を行う。練習問題を通じ、知識の定着を図る。講義後半では、音声認識システムの構築に必要な理論の解説とともに、コンピュータを用いた演習を実施し、システムの構築方法を身につける。				
注意点	適宜ノートパソコンを持参すること。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。また、授業内容について、決められた期日までの課題（レポート）提出を求める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスを用いた授業内容の説明、パターン情報処理とは、データの前処理（自学自習内容）教科書2章の演習問題2.1を解いておくこと。	データの前処理の重要性を理解する。	
		2週	パターンからの特徴抽出（自学自習内容）教科書3章の演習問題3.2を解いておくこと。	特徴抽出の概要を理解する。	
		3週	最近傍決定則による識別（自学自習内容）教科書4章の演習問題4.1, 4.2を解いておくこと。	最近傍決定則を理解する。	
		4週	誤差最小化に基づく識別（自学自習内容）教科書5章の演習問題5.1を解いておくこと。	誤差最小化に基づく識別法を理解する。	
		5週	サポートベクトルマシンによる識別（自学自習内容）講義内練習問題について復習しておくこと。	サポートベクトルマシンを理解する。	
		6週	ニューラルネットワークによる識別（自学自習内容）授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で調べておくこと。	ニューラルネットワークを理解する。	
		7週	未知データの推定（自学自習内容）教科書8章の演習問題8.1を解いておくこと。	未知データの推定法を理解する。	
		8週	パターン認識システムの評価（自学自習内容）ここまでの授業内容に関連する課題を期日までに提出すること。	パターン認識システムの評価法を理解する。	
	4thQ	9週	連続音声認識の概要（自学自習内容）講義内で示される問題についての解答を考えておくこと。	連続音声認識の概要を説明できる。	

	10週	音響モデルの構築 (自学自習内容) 教科書10章の演習問題10.1, 10.2を 解いておくこと。	音響モデルの構築方法を理解する。
	11週	HMMによる単語認識	HMMの基本を理解する。
	12週	音声認識のための文法規則	音声認識のための文法規則の記述方法を理解する。
	13週	統計的言語モデルの構築 (自学自習内容) 教科書13章章末の例題を解いておく こと。	統計的言語モデルの構築方法を理解する。
	14週	連続音声認識の実現 (自学自習内容) ここまでの授業内容に関連する課題 を期日までに提出すること。	連続音声認識システムの動作を理解する。
	15週	対話システムの開発に向けて	対話システムの開発における重要事項を理解する。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	工業デザイン論
科目基礎情報					
科目番号	92016		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「増補新装(カラー版)世界デザイン史」阿部公正監修 (美術出版社) ISBN978-4-568-40084-7				
担当教員	三島 雅博				
目的・到達目標					
(ア)近代工業デザイン発展の過程を理解し、おおよその流れを説明できる。 (イ)各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できる。 (ウ)製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できる。 (エ)各デザイン運動の課題と造形を理解する。					
ルーブリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	近代工業デザイン発展の過程を理解し、その流れを説明できる。		近代工業デザイン発展の過程をおおよそ理解し、おおよその流れを説明できる。		近代工業デザイン発展の過程を理解していない。
評価項目(イ)	各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できる。		各デザイン運動の目的と社会的背景との関連をおおよそ説明できる。		各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できない。
評価項目(ウ)	製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できる。		製品のデザインと工業力・技術の発展との関係をおおよそ説明できる。		製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	19世紀中頃より現代に至るまでの工業デザインの展開とその哲学及び目標についての講義を行う。産業革命とともに大量生産が始まり、それにより生じた製品のデザインの質の悪化が「デザイン」という意識を生じさせ、デザイン運動を発生させた。「デザイン」のその後の展開は、単に形を決めるだけの技術ではなく、様々な理論に裏打ちされ、哲学を伴った「芸術」として発展してきた。本講義では、そのような各段階で、デザイナーが検討し、到達しようとしてきたものが何であったのかを検討し、デザインの意義を理解することに努める。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、受講者に割り当てられた発表を基に進められる。				
注意点	受講者は教員の薦める文献などで毎授業ごとに予習をしていくことが必要である。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	近代デザインの前提。産業革命と技術の革新、新しい材料としての鉄、万国博の誕生 授業後に復習し、学習内容の理解を深めること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		2週	近代デザインの始まり。アーツ&クラフト運動 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		3週	伝統からの自由。アール・ヌーヴォー 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		4週	機能主義デザインの誕生。ウィーン分離派 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		5週	機械の美。イタリア未来主義 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		6週	機械の美。ロシア構成主義 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		7週	機械の美。ル・コルビュジエ 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		8週	工業的美。オランダのデ・ステイル 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
	4thQ	9週	工業デザインの誕生。P.バーレンス、ドイツ工作連盟 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		10週	近代デザイン教育。芸術と技術と教育(バウハウス) 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。	

	11週	戦前アメリカの工業デザイン。工業力、流線型 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。
	12週	戦前アメリカの工業デザイン。アール・デコ 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。
	13週	戦後のデザイン。北欧、イタリア、ヨーロッパ 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。
	14週	戦後のデザイン。アメリカ 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。
	15週	戦後のデザイン。日本 質疑討論のために上記項目について予習してくること。	「授業内容」を理解し説明できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	レポート	合計	
総合評価割合		40	60	100	
分野横断的能力		40	60	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術史	
科目基礎情報						
科目番号	92017		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	/プリント等					
担当教員	稲垣 宏, 鬼頭 俊介, 塚本 武彦, 小林 睦, 今岡 克也					
目的・到達目標						
(ア)熱機関の発達と歴史の概要を説明できる。 (イ)世界および日本における電気史の概要を説明できる。 (ウ)電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ説明できる。 (エ)人類が自然と闘い土木構造物を造って来たこれまでの様子が理解できる。 (オ)現代の社会資本制度における土木構造物の築造事業の位置付けが理解できる。 (カ)住宅構造や地震防災の技術や発達の概要を説明できる。 (キ)建築計画関連技術の発達の概要を説明できる。 (ク)コンピュータ・インターネットの変遷の概略を、具体例をあげて説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)		熱機関の発達と歴史の概要を的確に説明できる。	熱機関の発達と歴史の概要を概ね説明できる。	熱機関の発達と歴史の概要を説明できない。		
評価項目(イ)		世界および日本における電気史の概要を説明できる。	世界および日本における電気史の概要を概ね説明できる。	世界および日本における電気史の概要を説明できない。		
評価項目(ウ)		電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ説明できる。	電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ概ね説明できる。	電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C2 世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理						
教育方法等						
概要	今日の科学技術の進歩はめざましく、我々人間は発達した技術の恩恵を享受している。しかし、高度に発展を遂げた各種技術は一朝一夕でできあがったものではなく、いろいろな人の発明・発見あるいはたゆまぬ改良の努力によっている。そのため、今日の科学技術をよく理解するためには、先人達が創り出してきた過去から現在に至る技術について知ることが大切である。本科目では、機械、電気・電子、環境都市、建築、情報など各分野の技術が発達してきた経緯を概観し、地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につける。全15週のうち、第10週から第15週の授業では、企業において、「建築設計」を担当していた者、「情報システム開発」を担当していた者が、自らの実務経験を踏まえて、技術の変遷について様々な角度から説明する。					
授業の進め方と授業内容・方法	適宜講義プリントを配布する。スライドを活用して多くの写真やイラストを提示しながら講義を進めていく。					
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。適宜、授業内容に関する課題(レポート)を課すので、決められた期日までに提出すること。さらに、興味をもった事柄については、Webや文献等で調べてみる。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
後期	1週	シラバスを用いたガイダンス、熱機関の発達と歴史(熱機関の発達と歴史に関する課題)		シラバスを用いたガイダンス、熱機関の発達と歴史を理解する		
	2週	熱機関の発達と歴史(熱機関の発達と歴史に関する課題)		熱機関の発達と歴史を理解する		
	3週	熱機関の発達と歴史(熱機関の発達と歴史に関する課題)		熱機関の発達と歴史を理解する		
	4週	電気の発見から電池の開発、電磁気学の発展、今日の電力産業まで(電気の技術史と世界の電力事情に関する課題)		電気の発見から電池の開発、電磁気学の発展などを説明することができる。		
	5週	電気の技術史1: 通信・電話、ラジオ・テレビ放送網(通信技術とラジオ・テレビの歴史に関する課題)		通信・電話、ラジオ・テレビ放送網の発達と歴史を理解する。		
	6週	電気の技術史2: 電気・電子材料、電気機器、家庭用電化製品(電気製品に関する課題)		電気・電子材料、電気機器および家庭用電化製品の発達と歴史を理解する。		
	7週	地図と測量技術の発展からみる日本の土木史		地図と測量技術の発展からみる日本の土木史を理解する。		
	8週	巨大土木建造物である黒部ダム建設の歴史		巨大土木建造物である黒部ダム建設の歴史を理解する。		
	4thQ	9週	羽田空港増設の歴史から見る土木技術の歴史		羽田空港増設の歴史から見る土木技術の歴史を理解する。	
		10週	地震学および地震防災技術の歴史課題として、将来家族とともに暮らす戸建住宅の案を作成させる		地震学や地震防災の技術や発達の概要を説明できる。	

		11週	戸建住宅の構造技術の歴史 課題として、将来家族とともに暮らす戸建住宅の案を作成させる	住宅構造の技術や発達の概要を説明できる。
		12週	RC造建物の構造技術の歴史 課題として、将来家族とともに暮らす戸建住宅の案を作成させる	RC造建物の技術や発達の概要を説明できる。
		13週	コンピュータの歴史：計算補助道具～機械式計算機～電気機械式計算機（復習：授業後に「まとめ資料」を配布するので、それを見ながら、授業で説明した技術の進歩の流れを自分自身で再度たどってみる）	計算補助具から機械式計算機へ、そして電気機械式計算機までの変遷を具体例を示して説明することができる
		14週	コンピュータの歴史：電子計算機の登場とその進化（復習：授業後に「まとめ資料」を配布するので、それを見ながら、授業で説明した技術の進歩の流れを自分自身で再度たどってみる）	電子計算機の登場とその進化の歴史について、具体的な史実を示して説明することができる
		15週	パソコンの登場、インターネットの歴史（復習：授業後に「まとめ資料」を配布するので、それを見ながら、授業で説明した技術の進歩の流れを自分自身で再度たどってみる）	パソコンの黎明期の様子、およびインターネットの登場と進化の歴史を、史実を基に説明することができる
		16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		課題	小テスト	合計	
総合評価割合		70	30	100	
分野横断的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	コンパイラ
科目基礎情報					
科目番号	95018		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「コンパイラ」中井央著 (コロナ社) ISBN:978-4339027082 / 「コンパイラ: 作りながら学ぶ」中田育男著 (オーム社) ISBN:978-4274221163、 「lex&yaccプログラミング」村上列訳 (アスキー出版) ISBN:978-4756102973				
担当教員	江崎 信行				
目的・到達目標					
(ア)コンパイラの基礎的な概念、その構成を理解する。 (イ)簡単なコンパイラの例として記法の変換を理解し、プログラムを作成できる。 (ウ)文法と言語についてその考え方を理解し、文法をバックス記法で定義し、構文図式で表現できる。 (エ)字句解析と正規表現を理解し、字句読み取りプログラムをlexを用いて作成できる。 (オ)構文解析と文法を理解し、与えられた文法に対する簡単な例文とその解析木を作成できる。 (カ)構文解析と文法を理解し、yaccによる構文解析プログラムを作成できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	コンパイラを設計する上で必要な知識として、形式言語の概念について説明できる。		形式言語の概念について説明できる。		形式言語の概念について説明できない。
評価項目2	コンパイラを設計する上で必要な知識として、正規表現と有限オートマトンの関係を説明できる。		正規表現と有限オートマトンの関係を説明できる。		正規表現と有限オートマトンの関係を説明できない。
評価項目3	コンパイラの役割と仕組みを理解し、簡易的なコンパイラを設計・実現できる。		コンパイラの役割と仕組みについて説明できる。		コンパイラの役割と仕組みについて説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A2 ソフトウェア開発において、数理的理論に基づくスマートな設計ができるとともに、ハードウェアの基本動作を意識した設計ができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	コンピュータシステムにおけるソフトウェアの基本的な要素 (システムプログラム) の代表的な例である言語翻訳プログラム (コンパイラ) を取り扱う。本科目は文法や言語に関する基礎知識の復習から始めて、コンパイラの基礎的な概念やその構成を学ぶ。さらにコンパイラの設計法を演習を通じて理解を深める。				
授業の進め方と授業内容・方法	各回の授業においては、まず、新たに修得する理論や技術の解説をする。その後、および、自学自習において、自ら演習の課題を解決していく。				
注意点	計算機言語論A,B、形式言語理論を修得していることが望ましい。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスを用いた授業内容の説明、コンパイラとは、コンパイラの基礎的な概念 (復習: プログラム言語の歴史)		コンパイラの役割と仕組みを理解する。
		2週	コンパイラの構成: 変換系と通訳系、T図式、I図式 (復習: T図式、I図式、予習: 記法の変換)		コンパイラの仕組みをT図式で表現できる。
		3週	簡単なコンパイラの例: 記法の変換、後置記法、中置記法、同プログラミング演習 (復習: 四則演算コンパイラ設計)		簡単なコンパイラを理解する。
		4週	簡単なコンパイラの例: 記法の変換、後置記法、中置記法、同プログラミング演習 (復習: 四則演算コンパイラ設計)		簡単なコンパイラをプログラミングできる。
		5週	文法と言語: バックス記法、構文図式 (復習: 文法と言語の表現方法)		形式言語の概念を理解する。
		6週	文法と言語: バックス記法、構文図式 (復習: 文法と言語の表現方法)		形式言語のうち、文脈自由文法を理解する。
		7週	yaccとlex (復習: yacc、lexのプログラミング)		簡単なコンパイラをyaccとlexを用いて作成できる。
		8週	字句解析: 正規表現と有限オートマトン (復習: プログラム言語の字句解析)		正規表現と有限オートマトンの関係を理解する。
	4thQ	9週	lexによる字句解析演習 (復習: lexのプログラミング)		lexを用いて字句解析器を記述できる。
		10週	構文解析: 構文解析の種類、下向き構文解析 (復習: 構文解析の歴史と種類)		構文解析の種類を理解する。
		11週	yaccによる構文解析演習 (復習: yacc、lexのプログラミング)		yaccを用いて構文解析器を記述できる。
		12週	意味解析: 記号表と探索、プログラムの意味誤り (復習: 記号表の設計)		意味解析を理解する。
		13週	仮想計算機と仮想中間言語 (復習: 仮想計算機の設計、コーディング、予習: コンパイラ設計)		仮想計算機と仮想中間言語を理解する。



		14週	コンパイラ設計プログラミング演習（復習：総合的なプログラミング）	コンパイラを設計・実現できる。	
		15週	コンパイラ設計プログラミング演習（復習：総合的なプログラミング）	コンパイラを設計・実現し、評価できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	合計		
総合評価割合		100	100		
専門的能力		100	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	電子工学
科目基礎情報					
科目番号	95023		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	新インターユニバーシティ「電子回路」 岩田 聡 編著 (オーム社) / 「ELECTRONIC CIRCUITS」 Donald L. Schilling著、のプリントを使用、その他プリントを使用				
担当教員	都築 啓太				
目的・到達目標					
(ア)半導体、金属、絶縁物の違いや半導体の特徴を説明することができる。 (イ)真性半導体と外因性半導体、キャリア、n型半導体とp型半導体を説明することができる。 (ウ)p,n接合とダイオードの原理に関して説明することができる。 (エ)バイポーラトランジスタの動作原理を説明することができる。 (オ)トランジスタ回路による電圧増幅、電流増幅を説明でき、図式解法と等価回路で説明し解析できる。 (カ)OPアンプの特徴と基礎回路の原理説明と応用回路の設計ができる。 (キ)ジョセフソン接合や電子回路を用いた先端技術の特徴を説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解し、説明できる。	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解できる。	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解できない。		
評価項目(イ)	トランジスタを用いた増幅回路を理解し解析できる。	トランジスタを用いた増幅回路を理解できる。	トランジスタを用いた増幅回路を理解できない。		
評価項目(ウ)	OPアンプを用いた応用回路を理解できる。	OPアンプを用いた基礎回路を理解できる。	OPアンプを用いた基礎回路を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A1 ハードウェアの基本動作を理論面から解析できるとともに、ソフトウェアの手法を利用してハードウェアを設計できる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	エレクトロニクスの技術が工業分野においては重要視されている。家庭にまでコンピュータをはじめとする電子情報機器が普及し、我々の生活からこれらを切り離すことはできない時代となっている。電気電子技術者はエレクトロニクスの果たす役割を理解し、これら技術を学習、発展させる必要がある。電子回路は情報・通信はもとより機械・制御工学の分野を目指す人にとっても重要な基礎科目である。この講義では、Donald L. Schilling 著の「ELECTRONIC CIRCUIT」を副読本として、本学科で学習した回路を基礎として電子回路を学習する。 加えて、高度情報化社会を支えるコンピュータ等の機器には、主にシリコン半導体で作られた電子部品が用いられている。コンピュータ等のハードウェアの動作を理解するには、半導体で作られた電子部品そのものについての知識を深めておくことが大切である。 特に、アナログ回路を中心に回路設計ができることを目標とし、実践的な実験も取り入れて講義を実施する。本講義では、このような「電子工学」について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	主に板書と配布プリントを用いて講義を進める。配布プリントでの理論学習や実験のための回路設計を課題として与え、主に自宅での自学・自習を行うことにより、じっくり時間をとって考える必要のある電気回路への取り組み時間の絶対量を増加させ、着実に計算力と回路解析力をつけていく。				
注意点	(自学自習内容)授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。また授業内容に関連する予習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス：電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用	講義内容と電子回路の概要を理解する。	
		2週	電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	電子回路の概要を理解する。	
		3週	電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用	電子回路の概要を理解する。	
		4週	電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	理解度チェックにより電子回路の概要を理解する。	
		5週	OPアンプと理想OPアンプ： イマジナリショート 差動利得 $\infty$ OPアンプに関して復習し理解を深めること	OPアンプと理想OPアンプについて理解する。	
		6週	OPアンプの基礎回路： 反転、非反転増幅回路および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	実験によりOPアンプの基礎回路について理解する。	
		7週	ダイオードの原理と整流特性：P型N型半導体、PN接合、整流回路	ダイオードの原理と整流特性を理解する。	
		8週	ダイオードの原理と整流特性：P型N型半導体、PN接合、整流回路および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	実験によりダイオードの原理と整流特性を理解する。	
	2ndQ	9週	トランジスタの基礎原理： PNP NPN トランジスタにおける電流増幅	トランジスタの基礎原理を理解する。	

		10週	トランジスタの基礎原理： PNP NPN トランジスタにおける電流増幅および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	実験によりトランジスタの基礎原理を理解する。
		11週	トランジスタ回路の図式解法： 増幅回路とトランジスタの等価回路	トランジスタ回路の図式解法ができる。
		12週	トランジスタ回路の図式解法： 増幅回路とトランジスタの等価回路および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	理解度チェックによりトランジスタが理解できていることを確認する。
		13週	バイポーラトランジスタ： 接地形式、トランジスタ回路の増幅動作とスイッチング動作	トランジスタの諸動作が理解する。
		14週	バイポーラトランジスタ： 接地形式、トランジスタ回路の増幅動作とスイッチング動作および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	実験によりトランジスタの諸動作が理解する。
		15週	超伝導回路の基礎とその応用、ジョセフソン接合および講義内容に関して自学・自習で復習し理解を深めること	ジョセフソン接合や先端技術を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		60	40	100	
専門的能力		60	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	数理論理学
科目基礎情報					
科目番号	95024		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない				
担当教員	米澤 佳己				
目的・到達目標					
(ア) 数学的な基本的記号の意味を理解できる。簡単な証明ができる。 (ウ) 最大公約数、最小公倍数、一次合同式に関する基本的な計算ができる。 (オ) オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解し、簡単な例の計算が行える。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	数学的な基本的記号の意味を理解でき、簡単な証明をすることができる。		数学的な基本的記号の意味を理解できる。		数学的な基本的記号の意味を理解できない。
評価項目(イ)	最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解でき、簡単な計算をすることができる。		最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解できる。		最大公約数、最小公倍数、1次合同式、不定方程式を理解できない。
評価項目(ウ)	オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解し、簡単な例の計算が行える。		オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解できる。		オイラーの定理、RSA 暗号の仕組みを理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A4 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討することができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 本校教育目標 ② 基礎学力					
教育方法等					
概要	この講義では自然数及び整数の性質について考察する。整数には最大公約数、最小公倍数などの実数には無い概念を導入することにより様々な応用が与えられる。中でも現在では計算機によるネットワークの利用における暗号の取り扱いにおいて整数の性質が重要な論理的基礎になっている。本講義においては、整数の性質を基本から解説し、その応用として現在の暗号の理論の初歩を述べる。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義による概念および性質の解説と演習により講義を行う。				
注意点	授業内容に関連する課題を毎回出題するので、必ず提出すること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数学の基本的記号の使い方と基本的性質	数学の基本的記号の使い方と基本的性質を理解する。	
		2週	数学的帰納法の復習 (課題: 数学定期帰納法を用いた簡単な証明)	簡単な数学的帰納法の証明をすることができる。	
		3週	背理法による証明法 (課題: 背理法を用いた簡単な証明)	背理法を用いた簡単な証明をすることができる。	
		4週	整数に関する基本的定義と基本的性質 (課題: 整数の基本的性質の修得)	整数に関する基本的定義と基本的性質を理解する。	
		5週	ユークリッドの互除法とその応用 (課題: ユークリッドの互除法の理解と計算)	ユークリッドの互除法を理解し、とその応用を計算できる。	
		6週	最大公約数・最小公倍数に関する性質 (課題: 最大公約数、最小公倍数の性質と計算法)	最大公約数・最小公倍数に関する性質を理解する。	
		7週	素因数分解の可能性と一意性 (課題: 素因数分解の例)	素因数分解の可能性と一意性を理解する。	
		8週	一次合同式の定義と基本的性質 (課題: 一次合同式の基本的性質)	一次合同式の定義と基本的性質を理解する。	
	2ndQ	9週	合同方程式、不定方程式 (課題: 合同方程式、不定方程式の解法)	簡単な合同方程式、不定方程式の性質を理解し、解くことができる。	
		10週	剰余に関する定理 (課題: 剰余に関する定理を利用した計算)	剰余に関する定理を理解する。	
		11週	オイラー関数の定義 (課題: オイラー関数の計算と基本的性質)	オイラー関数の定義を理解し、基本的な性質を利用できる。	
		12週	オイラーの定理、フェルマーの定理 (課題: オイラーの定理、フェルマーの定理を利用した計算)	オイラーの定理、フェルマーの定理を理解する。	
		13週	公開鍵暗号の仕組み (課題: 公開鍵暗号の仕組み)	公開鍵暗号の仕組みを理解する。	
		14週	公開鍵暗号の例としてのRSA暗号 (課題: RSA暗号の具体的な計算法)	公開鍵暗号の例としてのRSA暗号を理解する。	
		15週	電子署名の仕組みとRSA暗号におけるその実現法	電子署名の仕組みとRSA暗号におけるその実現法を理解する。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	ネットワークセキュリティ
科目基礎情報					
科目番号	95025		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報科学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「情報セキュリティ入門 情報倫理を学ぶ人のために (改訂版)」 佐々木良一監修, 会田和弘 (共立出版) ISBN:978-4-320-12376-2 / (参考書) 「実践パケット解析」 Chris Sanders (オライリージャパン) ISBN:978-4873115696 / (参考書) 「アナライジングマルウェア」 新井悠 他 (オライリージャパン) ISBN:978-4873114552				
担当教員	平野 学				
目的・到達目標					
(ア)インターネット社会が抱える問題に対する倫理の重要性を理解できる。 (イ)TCP/IPネットワークのレベルでのセキュリティ対策を理解できる。 (ウ)ウェブアプリケーションのセキュリティ対策を理解できる。 (エ)共有鍵暗号、公開鍵暗号、ハッシュ関数、電子署名の基礎的な考え方を理解できる。 (オ)マルウェアの仕組みと解析手法を理解できる。 (カ)情報セキュリティの法制度の基礎を理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	インターネット社会が抱える問題に対する倫理の重要性とセキュリティに関する法律を理解でき、自分の言葉で具体的な事例について説明できる。	インターネット社会が抱える問題に対する倫理の重要性とセキュリティに関する法律を説明できる。	インターネット社会が抱える問題に対する倫理の重要性とセキュリティに関する法律を説明できない。		
評価項目(イ)	TCP/IPネットワーク、ウェブアプリケーションのセキュリティ対策を理解でき、応用的な対策についても説明できる。	TCP/IPネットワーク、ウェブアプリケーションのセキュリティ対策を説明できる。	TCP/IPネットワーク、ウェブアプリケーションのセキュリティ対策を説明できない。		
評価項目(ウ)	共通鍵暗号、公開鍵暗号、ハッシュ関数、電子署名の基礎を理解でき、実際の社会での応用事例についても説明できる。	共通鍵暗号、公開鍵暗号、ハッシュ関数、電子署名の基礎を説明できる。	共通鍵暗号、公開鍵暗号、ハッシュ関数、電子署名の基礎を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A3 コンピュータネットワークの動作を通信理論の観点から数理的に解析できる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	この講義の目的はインターネットによって生じる様々な社会問題を技術、倫理、法律のそれぞれの観点から正しく理解することである。まず、インターネット社会が抱える問題を説明し、そのリスク評価手法を学ぶ。そして、法律の観点からインターネット社会を健全に維持する仕組みを学び、最後に技術者としての倫理の重要性を学習する。技術的観点からは、TCP/IPレベルでのセキュリティ対策を学習し、その後ウェブアプリケーション特有のセキュリティ対策を学ぶ。続いて、セキュリティ対策に必要な暗号の基礎を学ぶ。最後に、様々なセキュリティ事件の原因となり得るマルウェアの仕組みとその解析手法を学習する。この科目は企業でインターネットサービスを開発していた教員がその経験を生かし、インターネットサービス構築の際に考慮すべきセキュリティ上の脅威と対策について講義形式で授業を行うものである。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業では各自のノートパソコンに仮想マシンをインストールし、その環境のなかでサイバー攻撃とその防御機構を構築する演習をおこなう。本講義はサイバー攻撃を模擬するセキュリティ検査ツールを利用する。よって演習を開始する前に必ず受講生はサイバーセキュリティ関連の法律を学び、さらに法律でカバーできない範囲の行動基準として「倫理」の重要性も学ぶ。				
注意点	毎週、ノートパソコンを持参すること。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。授業内容について、決められた期日までの課題 (レポート) 提出を求める。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	シラバスの説明 インターネット社会と情報倫理 (1章) (自学自習内容) 最新のサイバーセキュリティ事件に関する調査	インターネット社会と情報倫理を理解できる。		
	2週	インターネット社会が抱える問題 (2章) (自学自習内容) クッキーを用いた広告トラッキングに関する調査	インターネット社会が抱える問題を理解できる。		
	3週	情報セキュリティとは (3章) セキュリティのCIA (機密性、完全性、可用性)、リスク分析 (自学自習内容) セキュリティ事件のリスクの評価	セキュリティのCIA (機密性、完全性、可用性)、リスク分析を理解できる。		
	4週	情報セキュリティの技術的対策 (4章) (自学自習内容) 情報セキュリティの技術的対策の復習	情報セキュリティの技術的対策の概要を理解できる。		
	5週	インターネット社会と法 (5章) 情報倫理教育へ向けて (6章) (自学自習内容) 不正アクセス禁止法の条文の理解	インターネット社会と法を理解できる。情報倫理教育の重要性を理解できる。		
	6週	演習 (1): ポートスキャンとOS推測、Wiresharkによるパケットの解析 (自学自習内容) 演習内容をまとめて課題として提出	ポートスキャンとOS推測を理解できる。		

2ndQ	7週	演習（2）： ファイアウォール、ARPスプーフィング攻撃と対策、Wireshark によるパケットの解析（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	ファイアウォール、ARPスプーフィング攻撃と対策を理解できる。
	8週	ウェブアプリケーションのセキュリティ（1）： OSコマンドインジェクション攻撃と対策、アクセスログの分析（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	OSコマンドインジェクション攻撃と対策、アクセスログの分析を理解できる。
	9週	ウェブアプリケーションのセキュリティ（2）： SQLインジェクション攻撃と対策（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	SQLインジェクション攻撃と対策を理解できる。
	10週	ウェブアプリケーションのセキュリティ（3）： クロスサイトスクリプティング攻撃と対策（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	クロスサイトスクリプティング攻撃と対策を理解できる。
	11週	暗号（1）： 共通鍵暗号、ハッシュ関数、OpenSSLによる演習、パスワード解析ツールによる演習（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	共通鍵暗号、ハッシュ関数を理解できる。
	12週	暗号（2）： 公開鍵暗号、RSAアルゴリズムによる暗号化と電子署名、OpenSSL による演習（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	公開鍵暗号、RSAアルゴリズムによる暗号化と電子署名を理解できる。
	13週	マルウェア解析（1）： 不正プログラムの特徴、マルウェア解析の手順、脆弱性の報告、逆アセンブラ IDA Pro の使い方（自学自習内容）IDA Pro の使い方を復習	不正プログラムの特徴、マルウェア解析の手順、脆弱性の報告、逆アセンブラ IDA Pro の使い方を理解できる。
	14週	マルウェア解析（2）： 逆アセンブラ IDA Pro による模擬マルウェアの静的解析（自学自習内容）演習内容をまとめて課題として提出	逆アセンブラ IDA Pro による模擬マルウェアの静的解析を理解できる。
	15週	総まとめ（自学自習内容）これまでの授業の復習と定期試験の対策	総まとめ
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	形式言語理論	
科目基礎情報						
科目番号	95031	科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専2			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	指定しない。 / 教材プリント					
担当教員	勝谷 浩明					
目的・到達目標						
<p>(ア)生成文法が生成する形式言語を理解する。  (イ)文脈自由文法及び文脈自由文法における構文木、最左導出、最右導出について理解する。  (ウ)文脈自由文法の標準形について理解する。  (エ)文脈自由文法の自己埋込み性と正規言語との関係について理解する。  (オ)決定性有限オートマトンと非決定性有限オートマトンとについて認識される言語の範囲が等しいことを理解する。  (カ)正規文法、正規表現、有限オートマトンの各々が規定する言語の範囲が等しいことを理解する。  (キ)Turing機械及びプッシュダウンオートマトンの意味と性質とを理解する。  (ク)形式言語の理論がコンパイラの字句解析及び構文解析に応用されることを理解する。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	文脈自由文法・文脈自由言語に関する定理の証明の概要を理解している。	文脈自由文法・文脈自由言語に関する定理を理解している。	文脈自由文法・文脈自由言語に関する定理を理解していない。			
評価項目2	正規文法・正規言語・正規表現・有限オートマトンに関する定理の証明の概要を理解している。	正規文法・正規言語・正規表現・有限オートマトンに関する定理を理解している。	正規文法・正規言語・正規表現・有限オートマトンに関する定理を理解していない。			
評価項目3	Chomskyの階層に関する定理の証明の概要を理解している。	Chomskyの階層に関する定理を理解している。	Chomskyの階層に関する定理を理解していない。			
学科の到達目標項目との関係						
<p>学習・教育到達度目標 A2 ソフトウェア開発において、数理的理論に基づくスマートな設計ができるとともに、ハードウェアの基本動作を意識した設計ができる。  JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力  本校教育目標 ② 基礎学力</p>						
教育方法等						
概要	言語理論の中でも形式言語理論といわれる内容を扱う。形式言語理論は、元々は人間が日常使う自然言語のモデルとして研究が始まったが、その後はプログラミング言語への応用も研究されている。このような事情から、形式言語理論は情報処理技術において、教養的な意味と、コンパイラの作成などに応用される実用的な意味とを併せ持つ。数学的な議論をする分野であり、きちんと理論を追いかけて理解することが望まれる。					
授業の進め方と授業内容・方法	配付した教材プリントに基づいて講義する。					
注意点	(自学自習内容) 配付する教材プリントを読んで予習・復習し、プリントに記載された問題を解くこと。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1週	数学的準備 (集合・写像・数学的帰納法・決定手続き) (課題: 数学的帰納法による証明)	集合・写像・数学的帰納法などに関する概念を理解する。			
	2週	形式言語とその演算 (言語の合併、接続、共通部分、Kleene閉包) (課題: 形式言語の演算)	形式言語とその演算について理解する。			
	3週	生成文法 (導出、文、生成文法が生成する言語) (課題: 生成文法が生成する言語の特定)	生成文法と句構造言語について理解する。			
	4週	文脈自由言語 (構文木、最左導出、最右導出など) (課題: 構文木の生成、最左導出の生成)	文脈自由文法及び構文木や最左導出について理解する。			
	5週	文脈自由文法の簡単化 (ε規則の除去、有用でない記号の除去) (課題: 文脈自由文法の簡単化)	文脈自由文法の簡単化について理解する。			
	6週	文脈自由言語の標準形 (Chomskyの標準形、Greibachの標準形) (課題: Chomskyの標準形への変換)	文脈自由文法の標準形について理解する。			
	7週	文脈自由文法と正規文法 (文脈自由文法の自己埋め込み性) (課題: 文脈自由言語の演算でできる言語を生成する文脈自由文法の構成)	文脈自由文法と正規文法の関連について理解する。			
	8週	正規言語と正規表現 (課題: 正規表現が表す言語の特定)	正規言語と正規表現について理解する。			
	2ndQ	9週	決定性有限オートマトンと非決定性有限オートマトン (課題: 有限オートマトンが認識する言語の特定)	有限オートマトンとについて理解する。		
		10週	正規言語と有限オートマトン (課題: 非決定性有限オートマトンが認識する言語を認識する決定性オートマトンの構成)	正規言語と有限オートマトンとの関係を理解する。		
		11週	句構造言語の階層 (課題: 単調文法における導出の試行)	Chomskyの階層について理解する。		
		12週	Turing機械 (Turing機械の拡張、帰納的な言語) (課題: Turing機械の動きの試行)	Turing機械について理解する。		



		13週	プッシュダウンオートマトン（課題：プッシュダウンオートマトンの試行）	文脈自由言語とプッシュダウンオートマトンとの関係を理解する。
		14週	字句解析（課題：有限オートマトンによる字句解析の試行）	字句解析の概要を理解する。
		15週	構文解析（上向き構文解析，下向き構文解析）（課題：構文解析の試行）	構文解析の概要を理解する。
		16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	1次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差を求めることができる。	3	
				2次元のデータを整理して散布図を作成し、相関係数・回帰直線を求めることができる。	3	

#### 評価割合

	定期試験	小テスト	合計
総合評価割合	40	60	100
専門的能力	40	60	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別研究Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	95303	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	研究	単位の種別と単位数	学修単位: 6	
開設学科	情報科学専攻	対象学年	専2	
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6	
教科書/教材	特に指定しない			
担当教員	稲垣 宏,安藤 浩哉,木村 勉,早坂 太一,江崎 信行,平野 学,村田 匡輝,都築 啓太			

<b>目的・到達目標</b> (ア)研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的についてよく理解できる。 (イ)研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。 (ウ)実験や調査などを通じて、信頼性の高いデータ収集、適切な工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。 (エ)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、完成度の高いコンピュータシステム開発を行うことができる。 (オ)研究成果を図表、数式等を有効に用いて他者にわかりやすく論文にまとめることができる。 (カ)研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭でわかりやすく限られた時間で説明することができる。
---

<b>ルーブリック</b>			
	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的についてそれぞれよく理解できる。	研究テーマ周辺についての基礎知識を持ち、研究の背景、動機、目的について一部理解できる。	研究テーマ周辺についての基礎知識を持っておらず、研究の背景、動機、目的について理解できない。
評価項目(イ)	研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。	研究上の問題点や修正点について指摘があれば、自ら解決することができる。	研究上の問題点や修正点を解決することができない。
評価項目(ウ)	実験や調査などを通じて、信頼性の高いデータ収集、適切な工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。	実験や調査などを通じて、データ収集、工学的手法を用いた解析および考察を行うことができる。	実験や調査などを通じて、データ収集、工学的手法を用いた解析および考察を行うことができない。
評価項目(エ)	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で他者にわかりやすく表現することができる(論文にまとめることができる)。	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で表現することができる(論文にまとめることができる)。	研究成果を図表、数式等を有効に用いて文書で表現することができない(論文にまとめることができない)。
評価項目(オ)	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭でわかりやすく限られた時間で説明することができる。	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭で説明することができる。	研究計画、内容、結果、考察等について、他者に視聴覚ツールなどを用いて口頭で説明することができない。

<b>学科の到達目標項目との関係</b> 学習・教育到達度目標 B1 与えられた問題を分析・モデル化し、解決方法を立案し、その有効性をコンピュータや測定装置を使って確かめることができる。 学習・教育到達度目標 B2 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合により、問題を的確に把握し、問題解決手法を自ら立案・推進できる。 学習・教育到達度目標 B3 社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有する。 学習・教育到達度目標 C4 日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力
---

<b>教育方法等</b>	
概要	特別研究Ⅰで行ってきたコンピュータのハードウェアの作成、コンピュータのソフトウェアの作成、エレクトロニクス関連の装置・部品の製作、数理基礎分野の研究などに引き続き、学生個々の選択する分野での研究テーマについて、深く専門の内容を掘り下げ、理解を深め、創造的に研究を進める過程を学ぶ。さらに、論文ならびに最終的な報告書をまとめる能力を身につける。
授業の進め方と授業内容・方法	学生が選択した研究テーマに対応する担当教員が研究指導教員となり授業を進める。
注意点	授業内容欄の単位時間配分はあくまで目安であり、担当教員によって差異がある。「情報科学」教育プログラムの必修科目である。本科目は認定専攻科における学修総まとめ科目に対応している。

選択必修の種別・旧カリ科目名

<b>授業の属性・履修上の区分</b> <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	---------------------------------	---------------------------------	---

<b>授業計画</b>				
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	研究計画の立案：これまでの研究成果を踏まえて、一年間の研究計画の作成	一年間の研究計画の作成に着手する
		2週	研究計画の立案：これまでの研究成果を踏まえて、一年間の研究計画の作成	一年間の研究計画の草案を完成させる
		3週	研究計画の立案：これまでの研究成果を踏まえて、一年間の研究計画の作成	一年間の研究計画について教員と議論する
		4週	研究計画の立案：これまでの研究成果を踏まえて、一年間の研究計画の作成	一年間の研究計画について教員との議論を踏まえて修正を行う
		5週	研究計画の立案：これまでの研究成果を踏まえて、一年間の研究計画の作成	一年間の研究計画を完成させる

2ndQ	6週	調査と実験：信頼性の高いデータ収集方法、適切な工学的手法を用いた解析および考察	調査と実験の方法について検討ができる	
	7週	調査と実験：信頼性の高いデータ収集方法、適切な工学的手法を用いた解析および考察	調査と実験の方法について検討を行う	
	8週	調査と実験：信頼性の高いデータ収集方法、適切な工学的手法を用いた解析および考察	調査と実験の方法について検討を完了する	
	9週	調査と実験：信頼性の高いデータ収集方法、適切な工学的手法を用いた解析および考察	調査と実験を行いデータの収集を行う	
	10週	調査と実験：信頼性の高いデータ収集方法、適切な工学的手法を用いた解析および考察	収集したデータの解析および考察を完了させる	
	11週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの要件定義ができる	
	12週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの詳細設計ができる	
	13週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの詳細設計ができる	
	14週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの実装ができる	
	15週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの実装ができる	
	16週			
	3rdQ	1週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの単体テストができる
		2週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの結合テストができる
		3週	システム開発：実験装置、データ収集、検証などテーマに沿った完成度の高いコンピュータシステムの構築	テーマに沿ったコンピュータシステムの結合テストができる
		4週	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成	研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成ができる
		5週	中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成	研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成ができる
6週		中間報告会：研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成	研究テーマおよび進捗状況に関する視聴覚教材等を用いた口頭発表資料の作成ができる	
7週		対外発表：学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成	学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成ができる	
8週		対外発表：学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成	学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成ができる	
4thQ		9週	対外発表：学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成	学会発表の予稿論文作成と口頭発表資料の作成ができる
		10週	修了論文の作成：研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成	研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成ができる
		11週	修了論文の作成：研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成	研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成ができる
		12週	修了論文の作成：研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成	研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成ができる
		13週	修了論文の作成：研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成	研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成ができる
		14週	修了論文の作成：研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成	研究成果を図表、数式等を用いて他者に分かりやすい論文の作成と修了審査会発表資料の作成ができる
		15週		
		16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		修了論文	最終発表	中間発表	合計
総合評価割合		50	30	20	100
専門的能力		50	30	20	100